

教育に関する事務の点検・評価報告書
(平成25年度分)

平成26年8月

横手市教育委員会

平成25年度横手市教育委員会委員

委員長 二階堂 衛

委員長職務代理者 小 松 恵里子

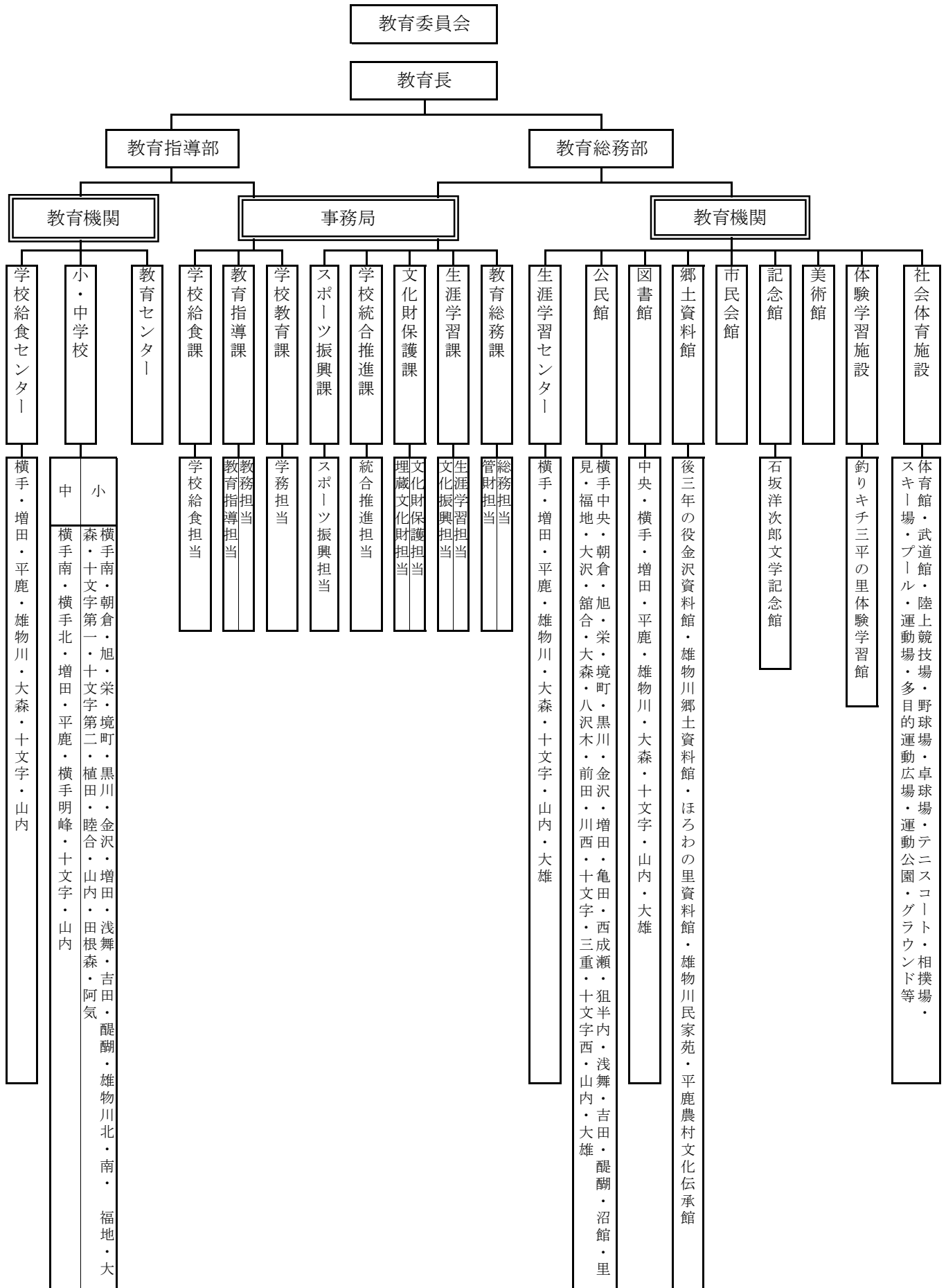
委 員 柴 田 康 裕

委 員 橋 本 知加子

委 員（教育長） 高 橋 準 一
※平成25年11月16日まで

委 員（教育長） 伊 藤 孝 俊
※平成25年12月3日より

教育委員会事務局の機構図 (H25. 4. 1)



— 目 次 —

| | | |
|-----|-----------------------|----|
| I | 点検・評価の趣旨等 | 1 |
| 1 | 点検・評価の趣旨 | |
| 2 | 点検及び評価の対象 | |
| 3 | 学識経験者の知見の活用 | |
| 4 | 報告書の作成 | |
| II | 教育委員会の活動状況 | 3 |
| 1 | 教育委員会会議の開催状況 | |
| 2 | 主な活動状況 | |
| III | 点検・評価の結果 | |
| 1 | 学校教育の充実 | |
| (1) | 学校施設の整備 | |
| ① | 学校統合推進事業 | 9 |
| ② | スクールバス運行事業 | 10 |
| ③ | 公用車購入事業 | 11 |
| ④ | 小中学校管理事業 | 12 |
| ⑤ | 再生可能エネルギー等導入事業 | 13 |
| ⑥ | コンピュータ整備事業 | 14 |
| ⑦ | 理科教育設備整備事業 | 15 |
| ⑧ | 学校給食センター統合事業 | 16 |
| (2) | 教育環境の整備 | |
| ① | 英語指導助手招へい事業 | 17 |
| ② | 奨学金貸付事業 | 18 |
| ③ | 就園奨励事業 | 19 |
| ④ | すこやか子育て支援事業 | 20 |
| | (ひとり親家庭児童保育援助費補助事業含む) | |
| ⑤ | 学校保健管理事業 | 21 |
| ⑥ | 教育相談事業 | 22 |
| ⑦ | 「心の教室相談」事業 | 23 |
| ⑧ | 不登校適応指導教室事業 | 24 |
| ⑨ | 学校生活サポート事業 | 25 |
| ⑩ | 次世代ものづくり人材育成事業 | 26 |

| | | |
|---|--------------------|----|
| ⑪ | スクールガード・リーダー配置事業 | 27 |
| ⑫ | 言語活動の充実による学力向上推進事業 | 28 |
| ⑬ | 就学前言語障害児指導事業 | 29 |
| ⑭ | 通学援助事業 | 30 |
| ⑮ | 特別支援教育就学奨励事業 | 31 |
| ⑯ | 要保護及び準要保護就学援助事業 | 32 |
| ⑰ | 小中学校各種大会派遣事業 | 33 |
| ⑱ | 学校給食事業 | 34 |

2 生涯学習の推進

(1) 生涯学習の基礎づくりへの支援

| | | |
|---|------------------|----|
| ① | 家庭教育支援事業 | 35 |
| ② | 成人式開催事業 | 36 |
| ③ | ジュニアリーダー育成事業 | 37 |
| ④ | 学校支援ボランティア活動支援事業 | 38 |
| ⑤ | 放課後子ども教室推進事業 | 39 |

(2) 学習機会の提供と学びの支援

| | | |
|---|------------|----|
| ① | 生涯学習センター事業 | 40 |
|---|------------|----|

(3) 学習の場と推進体制の整備

| | | |
|---|--------------|----|
| ① | 社会教育施設運営事業 | 54 |
| ② | 社会教育施設長寿命化事業 | 55 |

(4) 図書館の充実

| | | |
|---|--------------|----|
| ① | 図書館運営 | 56 |
| ② | 読書感想文コンクール事業 | 57 |

3 地域文化の振興

(1) 文化財の指定と保存活用

| | | |
|---|--------------------|----|
| ① | 指定文化財保護管理事業 | 58 |
| ② | 市内本調査事業（県委託、国庫補助） | 59 |
| ③ | 市内遺跡詳細分布調査事業（国庫補助） | 60 |
| ④ | 文化財普及活動事業 | 61 |

| | |
|-----------------------------|----|
| (2) ふるさとよこて博物館構想 | |
| ①各資料館の運営 | 62 |
| (3) 後三年合戦（役）史跡保存整備計画策定調査 | |
| ①後三年合戦関連遺跡調査費事業 | 63 |
| ②後三年合戦保存活用整備事業 | 64 |
| (4) 芸術文化の振興 | |
| ①芸術文化推進事業 | 65 |
| ②マンガ文化交流促進事業 | 68 |
| 4 生涯スポーツの振興 | |
| (1) ライフステージとニーズに合ったスポーツサービス | |
| ①奥羽横断駅伝競走大会事業 | 69 |
| ②スポーツのまちづくり事業 | 70 |
| ③大会補助事業 | 71 |
| ④体育協会活動補助事業 | 72 |
| ⑤スポーツ賞表彰事業 | 73 |
| ⑥友好都市スポーツ交流事業 | 74 |
| ⑦スポーツ立市よこて事業 | 75 |
| ⑧体育施設環境整備事業 | 76 |
| IV 学識経験者の意見（総評） | 77 |

I 点検・評価の趣旨等

1 点検・評価の趣旨

教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することが「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に規定されている。そこで、本市教育委員会では、法律の趣旨に基づき効果的かつ効率的な教育行政を推進し、市民への説明責任を果たすため、所管する事務の管理・執行について点検・評価を実施し、本報告書を作成した。なお、点検及び評価の内容等については、議会や市民の意見を踏まえながら随時改善を加え、適切な制度の運用に努めていくこととする。

2 点検及び評価の対象

本年度の点検・評価の対象は、平成25年度における教育委員会の事務の管理執行状況とし、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第23条に置いて教育委員会の職務権限とされる事務をはじめ、本教育委員会が所管するすべての事務を対象範囲としている。実際の点検・評価にあたっては、横手市総合発展計画の教育文化分野において各重点施策に定める事業を踏まえながら、教育委員会が行っている主な事務・事業を網羅する形で対象事業を選定している。

3 学識経験者の知見の活用

点検・評価にあたっては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第2項の規定により、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることが求められている。これは、教育委員会による自己点検、自己評価について客観性を確保するものであり、元小学校長の高橋俊一氏、元中学校長の狩野健一氏の2名から意見を聴いた。

4 報告書の作成

教育委員会の事務を4分野に分類して記載した。4分野は、1. 学校教育の充実、2. 生涯学習の推進、3. 地域文化の振興、4. 生涯スポーツの振興とし、「点検・評価」対象事業ごとに、事業の目的、事業の実施状況、事業の効果等、今後の課題・改善策について各事業の担当課が原案を作成し、教育委員の点検・評価を経て記載した。また、学識経験者から点検・評価案について意見を聴取し、いただいた意見については総評として掲載した。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 27 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 3 項の規定により事務局職員に委任された事務を含む）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

Ⅱ 教育委員会の活動状況（平成25年度）

1. 教育委員会会議の開催状況

横手市教育委員会の会議は、原則公開で毎月1回の定例会のほか必要に応じて臨時会を開催している。会議では5名の教育委員（教育長1名を含む）が教育行政の運営に関する基本方針や教育委員会規則の制定・改廃、教科書の採択、横手市指定文化財の指定など、委員会会議において議決を要する事項について審議・決定を行うとともに、重要な事項について事務局から報告を受けている。

平成25年度の教育委員会会議の開催状況は次のとおりである。

| 期 日 | 場 所 | 付議案件等 |
|------------------------------|----------------------|--|
| 平成25年 第4回定例会 (25.4.24) | 横手庁舎 第5第6委員 会室 | (承認事項) ・横手市学校評議員の委嘱について ・横手市スポーツ推進審議会委員の委嘱について ・横手市スポーツ推進委員の委嘱について ・横手市社会教育委員の委嘱について |
| 第5回定例会 (25.5.27) | 横手庁舎 第5第6委員 会室 | (報告) ・横手市教育委員会事務局職員の任命について (承認事項) ・横手市就学指導委員会委員の委嘱について ・横手市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について (議決事項) ・平成25年度横手市一般会計補正予算に関する意見の申出について |
| 第6回定例会 (25.6.24) | 南庁舎 講堂 | (承認事項) ・平成25年度横手市一般会計補正予算に関する意見の申出について (議決事項) ・横手市特別支援教育就学奨励費交付要綱の一部を改正する訓令について ・横手市児童生徒に対する通学費補助金交付要綱の一部を改正する訓令について ・横手市増田伝統的建造物群保存地区保存計画の制定について |

| | | |
|-----------------------|----------------------|---|
| 第7回定例会 (25.7.22) | 横手庁舎 第5第6委員 会室 | (議決事項) ・横手市指定有形文化財の指定について ・教育に関する事務の点検・評価報告書(平成24年度実績)について |
| 第2回臨時会 (25.8.7) | 横手庁舎 第1会議室 | (承認事項) ・事故による損害賠償の額を定めること及びこれに伴う和解に関する意見の申出について (議決事項) ・教職員の処分内申について |
| 第8回定例会 (25.8.19) | 南庁舎 講堂 | (議決事項) ・横手市立学校設置条例の一部を改正する条例に関する意見の申出について ・横手市子ども・子育て会議設置条例に関する意見の申出について ・工事請負契約の締結に関する意見の申出について ・財産の取得に関する意見の申出について ・財産の取得に関する意見の申出について ・平成25年度横手市一般会計補正予算に関する意見の申出について ・横手市図書館協議会委員の委嘱について |
| 第9回定例会 (25.9.24) | 横手庁舎 第5第6委員 会室 | (報告事項) ・横手市教育委員会事務局職員の任免について (議決事項) ・横手市立小中学校通学区域に関する規則の一部を改正する規則について |
| 第10回定例会 (25.10.28) | 横手庁舎 第5第6委員 会室 | (議決事項) ・横手市教育委員会事務局職員の任免について ・横手市増田伝統的建造物群保存地区保存計画の変更について ・横手市子ども読書活動推進計画の策定について |
| 第11回定例会 (25.11.25) | 南庁舎 講堂 | (議決事項) ・平成25年度横手市一般会計補正予算に関する意見の申出について |
| 第3回臨時会 (25.12.3) | 横手庁舎 第5第6委員 会室 | (承認事項) ・教職員の人事異動内申について (議決事項) |

| | | |
|--------------------------|------------------|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・横手市教育委員会委員長の選挙について ・横手市教育委員会委員長職務代理者の指定について ・横手市教育委員会教育長の任命について |
| 平成26年第2回定例会 (26.2.17) | 横手庁舎 第5第6委員会室 | <p>(議決事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横手市社会教育委員に関する条例の一部を改正する条例に関する意見の申出について ・横手市青少年問題協議会設置条例の一部を改正する条例に関する意見の申出について ・横手市公民館設置条例の一部を改正する条例に関する意見の申出について ・横手市生涯学習センター設置条例の一部を改正する条例に関する意見の申出について ・横手市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例に関する意見の申出について ・横手市大森グラウンド・ゴルフ場設置条例及び横手市都市公園条例の一部を改正する条例に関する意見の申出について ・横手市立図書館設置条例の一部を改正する条例に関する意見の申出について ・横手市いじめ対策委員会設置条例に関する意見の申出について ・工事請負契約の締結に関する意見の申出について ・平成25年度横手市一般会計補正予算に関する意見の申出について ・平成26年度横手市一般会計予算に関する意見の申出について ・平成26年度教育方針について ・学校事務の共同実施について |
| 第1回臨時会 (26.3.5) | 横手庁舎 第5委員会室 | <p>(議決事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度教職員の人事異動について |
| 第3回定例会 (26.3.24) | 横手庁舎 第5第6委員会室 | <p>(議決事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横手市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則の一部を改正する規則について ・横手市教育委員会事務局の組織に関する規則及び |

| | | |
|---|--|--|
| | | <p>横手市教育委員会事務局職員の職名に関する規則の一部を改正する規則について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横手市立図書館管理運営規則の一部を改正する規則について ・横手市大森総合学習センター管理運営規則の一部を改正する規則について ・横手市就学援助費交付要綱の一部を改正する訓令について ・横手市社会教育委員の委嘱について ・横手市生涯学習奨励員の委嘱について ・石坂洋次郎文学記念館施設運営協議会委員の委嘱について ・横手市図書館協議会委員の委嘱について ・横手市スポーツ振興計画第5期実施計画の策定について ・横手市いじめ防止等のための基本方針の策定について ・横手市教育委員会事務局職員の任免について |
| <p>開催回数 15回 [内訳] 定例会 12回 臨時会 3回</p> | | <p>付議案件等数 59件 [内訳] 承認事項 9件 議決事項 48件 報告事項 2件</p> |

(注)「承認事項」は、横手市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則により、教育長が専決処理した事項に関する承認のこと。

2. その他の主な活動

教育委員は、定例等の教育委員会会議に出席するほか、各種会議や関係行事に出席している。平成25年度における主な活動は次のとおりである。

| 時 期 | 会議・行事等 | 概 要 |
|--------|--|---|
| 平成25年 | | |
| 4月 | <ul style="list-style-type: none"> ・市立小中学校入学式 ・市立横手北中学校開校式典 ・第64回東北都市教育長協議会定期総会及び研修会 | <p>小学校8校、中学校5校に出席した。【5名】</p> <p>横手北中学校の開校式典に出席した。【5名】</p> <p>平成25年度総会（於：岩手県盛岡市）に出席した。【1名】</p> |
| 5月 | <ul style="list-style-type: none"> ・秋田県市町村教育委員会連合会第1回定期総会 ・秋田県都市教育長会議 ・第65回全国都市教育長協議会定期総会並びに研究大会旭大会 | <p>平成25年度第1回定期総会（於：秋田市）及び教育委員研修会に出席した。【1名】</p> <p>秋田県都市教育長協議会が主催した会議（於：秋田市）に出席した。【1名】</p> <p>平成25年度総会（於：北海道旭川市）に出席した。【1名】</p> |
| 5月～11月 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問 | <p>市立小中学校を訪問し、授業参観後に学校長より経営説明を受けた。【5名】</p> |
| 7月 | <ul style="list-style-type: none"> ・全県市町村教育委員会委員長・教育長会議 ・東北六県市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会 | <p>秋田県教育委員会が開催した会議（於：秋田市）に出席した。【5名】</p> <p>東北六県各市町村教育委員を対象とした研修会（於：福島県会津若松市）に出席した。【1名】</p> |
| 8月 | <ul style="list-style-type: none"> ・成人式 ・秋田県都市教育長協議会研修会 | <p>「Re:Start ～新たな旅立ちに向けて～」をテーマに、新成人による実行委員会が主体となって開催した成人式へ出席した。【3名】</p> <p>秋田県都市教育長協議会が主催した研修会（於：秋田市）に出席した。【1名】</p> |
| 10月 | <ul style="list-style-type: none"> ・市町村教育委員会研究協議会（第1ブロック） ・秋田県市町村教育委員会連合会第2回定期総会・委員研修会 | <p>文部科学省及び愛知県教育委員会が主催し、各市町村教育委員会の情報・意見交流を行う研究協議会（於：愛知県名古屋市）に出席した。【1名】</p> <p>平成25年度第2回定期総会（於：秋田市）及び教育委員研修会に出席した。【4名】</p> |

| | | |
|-------------|--|--|
| 11月 | <ul style="list-style-type: none"> ・全県市町村教育委員会委員長・教育長会議（第2回） ・秋田県都市教育長協議会教育長会議 | <p>秋田県教育委員会が開催した会議（於：秋田市）に出席した。【1名】</p> <p>秋田県都市教育長協議会が主催した会議（於：湯沢市）に出席した。【1名】</p> |
| 平成26年 1月 | <ul style="list-style-type: none"> ・「言語活動の充実による学力向上推進事業」横手明峰中学校区 第2回事前研修会 | <p>平成25年・26年度全市指定横手明峰中学校区の事前研修会に出席した。【1名】</p> |
| 3月 | <ul style="list-style-type: none"> ・市立小中学校卒業式 | <p>小学校10校、中学校5校に出席した。【5名】</p> |

Ⅲ 点検・評価の結果

| | | | |
|----------------|---|------|---------------|
| 1 学校教育の充実 | | 分野 | 1.学校教育の充実 |
| 項目 | (1)学校施設の整備 | 担当部課 | 教育総務部 学校統合推進課 |
| 点検・評価対象事業名 | ①学校統合推進事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 213,518 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>現在、横手市では校舎の老朽化が進み、子どもの数が年々減少している。本来、学校教育は集団で行うことを基本としており、様々な考え方や体験を持つ子ども達が集団活動を通して切磋琢磨し、学び合う場であることを考えると、一定の学校規模の確保が重要であることから、理想的な学級数を確保し、良好な教育環境を整備する。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>○雄物川地区小学校統合事業(雄物川小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雄物川小建設工事(8月～) <ul style="list-style-type: none"> 校舎棟 鉄筋コンクリート造3階建て 延べ床面積:6,489㎡ 体育館棟 鉄筋コンクリート造2階建て 延べ床面積:1,683㎡ プール・プール付属棟 鉄筋コンクリート造平屋建て 延べ床面積:139㎡ 車庫棟 鉄骨造平屋建て 延べ床面積:268㎡ 外構 駐車場・通路等一式 屋外体育施設 陸上競技場・多目的グラウンド ・開校準備委員会 設置(6月) ・校歌歌詞・校章公募 校歌歌詞決定(10月)、校章決定(2月) <p>○大雄地区小学校統合事業(大雄小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田根森小増築・改修等工事实施設業務委託(5～10月) ・田根森小増築・改修等工事(3月～) <ul style="list-style-type: none"> 増築教室棟 木造平屋建て一部鉄骨造り 延べ床面積:295㎡ 既存校舎棟改修 外壁・屋上防水全面改修、内装・床一部改修その他 プール プールサイド・付属棟改修 外構 駐車場工事(改修・拡張) ・開校準備委員会 設置(5月) ・校歌歌詞・校章公募 校歌歌詞決定(2月)、校章決定(2月) <p>○横手地区小学校統合事業(横手北小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校統合基本構想策定委員会 <ul style="list-style-type: none"> 校名検討(4・6月)、公募 「横手北小学校」を選定し、9月定例市議会で議決 ・校舎検討会(10・11月) ・基本・実施設計業務委託(10～3月) | | |
| 事業の効果等 | <p>○雄物川地区小学校統合事業 建設工事に着手し、開校準備委員会を設置するなど、開校に向けた準備を進めることができた。</p> <p>○大雄地区小学校統合事業 建設工事に着手し、開校準備委員会を設置するなど、開校に向けた準備を進めることができた。</p> <p>○横手地区小学校統合事業 基本・実施設計を完了し、平成26年度建設工事着手に向けた準備を整えることができた。</p> | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>○雄物川地区小学校統合事業 平成27年4月開校に向けた建設工事完成と開校準備の完了</p> <p>○大雄地区小学校統合事業 平成27年4月開校に向けた改修等工事完成と開校準備の完了</p> <p>○横手地区小学校統合事業 平成28年4月開校に向けた建設工事着手と開校準備の推進</p> | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-------------|-------------|------|-------------------------|-------|--------|---|------|---|----------|---|----------|---|-------------|---|----------|---|------|------|-------|------|------------|------|-------------|---|-----------|---|-----------|---|----------|---|-----------|---|-----------|---|----------|---|-----------|---|------------|---|----------|---|-----------|---|-------------|-------|-----------|---|-----------|------|------|---|-------------|---|-----------|---|------|---|-------------|---|-----------|---|---------|---|-------------|---|-----------|---|---------|------|------|---|-----------|---|---------|---|------|---|-------------------------|
| | | 分 野 | 1. 学校教育の充実 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 項 目 | (1) 学校施設の整備 | 担当部課 | 教育指導部 学校教育課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 点検・評価対象事業名 | ②スクールバス運行事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象事業において支出した金額 | 92,556 千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の目的 | <p>横手市スクールバス運行規定に基づき、効率的な運用及び学校教育の向上に資する。 遠距離通学児童生徒の登下校の完全確保を図る。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の実施状況 | <p>・児童生徒の通学距離が小学校4km、中学校6kmを目途に地域の実情を勘案しながら運行している。 ・通学以外には、市、教育委員会、体育連盟主催の大会等への選手輸送や社会科見学等の校外学習の際、通学時間に支障のない場合において運行している。 ・小学校9校17台、中学校4校19台、及び冬季運行中学校1校3台、冬季レンタル小中学校3校3台を運行している。 ※平成25年4月開校した横手北中について、スクールバス3台運行開始した。 ※羽後交通二井山吉田線が平成25年3月末にて廃線となり、これに対応するためスクールバス1台運行した。</p> <p>【 主な経費 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人件費 55,368 千円 ≪非常勤職員運転手35人雇用(前年度比4人増)≫ ・ 燃料費 17,603 千円 ・ 修繕費 12,165 千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の効果等 | <p>・児童生徒の登下校の安全確保及び保護者負担軽減や校外活動、大会への選手派遣などの活用が図られた。</p> <p>《 スクールバスの配置状況 》</p> <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">横手地域</td> <td style="width: 25%;">①横手北中1号車</td> <td style="width: 25%;">雄物川地域</td> <td style="width: 25%;">⑭雄物川北小</td> <td style="width: 25%;">〃</td> <td style="width: 25%;">⑳山内小</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>②横手北中2号車</td> <td>〃</td> <td>⑮雄物川北・南小</td> <td>〃</td> <td>㉑山内小(コースター)</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>③横手北中3号車</td> <td>〃</td> <td>⑯福地小</td> <td>大雄地区</td> <td>㉒田根森小</td> </tr> <tr> <td>増田地域</td> <td>④増田中(わかたか)</td> <td>大森地域</td> <td>⑰大森小(松田・猿田)</td> <td>〃</td> <td>㉓横手明峰中1号車</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>⑤増田中(わかば)</td> <td>〃</td> <td>⑱大森小(大平)</td> <td>〃</td> <td>㉔横手明峰中2号車</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>⑥増田小(さくら)</td> <td>〃</td> <td>⑲大森小(川西)</td> <td>〃</td> <td>㉕横手明峰中3号車</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>⑦増田小(すずかけ)</td> <td>〃</td> <td>⑳大森小(坂部)</td> <td>〃</td> <td>㉖横手明峰中4号車</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>⑧増田小(てんがもり)</td> <td>十文字地域</td> <td>㉑十文字中・十二小</td> <td>〃</td> <td>㉗横手明峰中5号車</td> </tr> <tr> <td>平鹿地域</td> <td>⑨浅舞小</td> <td>〃</td> <td>㉒十文字中(谷地新田)</td> <td>〃</td> <td>㉘横手明峰中6号車</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>⑩醍醐小</td> <td>〃</td> <td>㉓十文字中(本城館前)</td> <td>〃</td> <td>㉙横手明峰中7号車</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>⑪平鹿中1号車</td> <td>〃</td> <td>㉔十文字中(福島羽場)</td> <td>〃</td> <td>㉚横手明峰中8号車</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>⑫平鹿中2号車</td> <td>山内地域</td> <td>㉕山内小</td> <td>〃</td> <td>㉛横手明峰中9号車</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>⑬平鹿中3号車</td> <td>〃</td> <td>㉖山内小</td> <td>〃</td> <td>㉜横手明峰中10号車 (前年度比4台増)</td> </tr> </table> | | | 横手地域 | ①横手北中1号車 | 雄物川地域 | ⑭雄物川北小 | 〃 | ⑳山内小 | 〃 | ②横手北中2号車 | 〃 | ⑮雄物川北・南小 | 〃 | ㉑山内小(コースター) | 〃 | ③横手北中3号車 | 〃 | ⑯福地小 | 大雄地区 | ㉒田根森小 | 増田地域 | ④増田中(わかたか) | 大森地域 | ⑰大森小(松田・猿田) | 〃 | ㉓横手明峰中1号車 | 〃 | ⑤増田中(わかば) | 〃 | ⑱大森小(大平) | 〃 | ㉔横手明峰中2号車 | 〃 | ⑥増田小(さくら) | 〃 | ⑲大森小(川西) | 〃 | ㉕横手明峰中3号車 | 〃 | ⑦増田小(すずかけ) | 〃 | ⑳大森小(坂部) | 〃 | ㉖横手明峰中4号車 | 〃 | ⑧増田小(てんがもり) | 十文字地域 | ㉑十文字中・十二小 | 〃 | ㉗横手明峰中5号車 | 平鹿地域 | ⑨浅舞小 | 〃 | ㉒十文字中(谷地新田) | 〃 | ㉘横手明峰中6号車 | 〃 | ⑩醍醐小 | 〃 | ㉓十文字中(本城館前) | 〃 | ㉙横手明峰中7号車 | 〃 | ⑪平鹿中1号車 | 〃 | ㉔十文字中(福島羽場) | 〃 | ㉚横手明峰中8号車 | 〃 | ⑫平鹿中2号車 | 山内地域 | ㉕山内小 | 〃 | ㉛横手明峰中9号車 | 〃 | ⑬平鹿中3号車 | 〃 | ㉖山内小 | 〃 | ㉜横手明峰中10号車 (前年度比4台増) |
| 横手地域 | ①横手北中1号車 | 雄物川地域 | ⑭雄物川北小 | 〃 | ⑳山内小 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 〃 | ②横手北中2号車 | 〃 | ⑮雄物川北・南小 | 〃 | ㉑山内小(コースター) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 〃 | ③横手北中3号車 | 〃 | ⑯福地小 | 大雄地区 | ㉒田根森小 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 増田地域 | ④増田中(わかたか) | 大森地域 | ⑰大森小(松田・猿田) | 〃 | ㉓横手明峰中1号車 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 〃 | ⑤増田中(わかば) | 〃 | ⑱大森小(大平) | 〃 | ㉔横手明峰中2号車 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 〃 | ⑥増田小(さくら) | 〃 | ⑲大森小(川西) | 〃 | ㉕横手明峰中3号車 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 〃 | ⑦増田小(すずかけ) | 〃 | ⑳大森小(坂部) | 〃 | ㉖横手明峰中4号車 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 〃 | ⑧増田小(てんがもり) | 十文字地域 | ㉑十文字中・十二小 | 〃 | ㉗横手明峰中5号車 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平鹿地域 | ⑨浅舞小 | 〃 | ㉒十文字中(谷地新田) | 〃 | ㉘横手明峰中6号車 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 〃 | ⑩醍醐小 | 〃 | ㉓十文字中(本城館前) | 〃 | ㉙横手明峰中7号車 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 〃 | ⑪平鹿中1号車 | 〃 | ㉔十文字中(福島羽場) | 〃 | ㉚横手明峰中8号車 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 〃 | ⑫平鹿中2号車 | 山内地域 | ㉕山内小 | 〃 | ㉛横手明峰中9号車 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 〃 | ⑬平鹿中3号車 | 〃 | ㉖山内小 | 〃 | ㉜横手明峰中10号車 (前年度比4台増) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>・スクールバス車両数の増加に伴い、これまで以上の運行管理の徹底が必要となるほか、適正な車両管理についても必要である。 ・雄物川小及び大雄小等の学校統合を控え、これに伴うスクールバス新規購入に向け、運行管理費の一般財源確保の調整が困難となってくる。 ・スクールバス運行規定に基づくとともに、地域の実情及び道路事情等を勘案しながら柔軟な対応に向け、協議を重ねながら対応を進める必要がある。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|---|-----------|-------------|---------------------|---------|--------------------|-----------|---------------------|---------|----------------------|-----------|-----------------------|---------|-----------------------|-----------|-----------------------|---------|-------------------------|-----------|----------------------|---------|----------|-----------|----------------------|---------|----------|-----------|-----------------------|---------|---------|-----------|------------------------|---------|----------|-----------|
| | | 分野 | 1. 学校教育の充実 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 項目 | (1) 学校施設の整備 | 担当部課 | 教育指導部 学校教育課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 点検・評価対象事業名 | ③ 公用車購入事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象事業において支出した金額 | 70,677 千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の目的 | <p>下記スクールバスについて、登録年度及び走行距離から判断し、スクールバス車両を更新。</p> <table border="0"> <tr> <td>① 平鹿中学校スクールバスNo.399</td> <td>(46人乗り)</td> <td>H9.10月登録</td> <td>173,491km</td> </tr> <tr> <td>② 平鹿中学校スクールバスNo.400</td> <td>(46人乗り)</td> <td>H9.10月登録</td> <td>165,910km</td> </tr> <tr> <td>③ 平鹿中学校スクールバスNo.15</td> <td>(46人乗り)</td> <td>H11.10月登録</td> <td>174,258km</td> </tr> <tr> <td>④ 増田中学校スクールバスNo.187</td> <td>(29人乗り)</td> <td>H12.10月登録</td> <td>192,990km</td> </tr> <tr> <td>⑤ 田根森小学校スクールバスNo.110</td> <td>(29人乗り)</td> <td>H12.3月登録</td> <td>247,587km</td> </tr> <tr> <td>⑥ 雄物川北小学校スクールバスNo.54</td> <td>(46人乗り)</td> <td>H12.9月登録</td> <td>223,023km</td> </tr> <tr> <td>⑦ 横手北中学校スクールバスNo.1392</td> <td>(29人乗り)</td> <td>H6.7月登録</td> <td>309,849km</td> </tr> <tr> <td>⑧ 横手明峰中学校スクールバスNo. 376</td> <td>(29人乗り)</td> <td>H15.3月登録</td> <td>264,874km</td> </tr> </table> | | | ① 平鹿中学校スクールバスNo.399 | (46人乗り) | H9.10月登録 | 173,491km | ② 平鹿中学校スクールバスNo.400 | (46人乗り) | H9.10月登録 | 165,910km | ③ 平鹿中学校スクールバスNo.15 | (46人乗り) | H11.10月登録 | 174,258km | ④ 増田中学校スクールバスNo.187 | (29人乗り) | H12.10月登録 | 192,990km | ⑤ 田根森小学校スクールバスNo.110 | (29人乗り) | H12.3月登録 | 247,587km | ⑥ 雄物川北小学校スクールバスNo.54 | (46人乗り) | H12.9月登録 | 223,023km | ⑦ 横手北中学校スクールバスNo.1392 | (29人乗り) | H6.7月登録 | 309,849km | ⑧ 横手明峰中学校スクールバスNo. 376 | (29人乗り) | H15.3月登録 | 264,874km |
| ① 平鹿中学校スクールバスNo.399 | (46人乗り) | H9.10月登録 | 173,491km | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② 平鹿中学校スクールバスNo.400 | (46人乗り) | H9.10月登録 | 165,910km | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③ 平鹿中学校スクールバスNo.15 | (46人乗り) | H11.10月登録 | 174,258km | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ④ 増田中学校スクールバスNo.187 | (29人乗り) | H12.10月登録 | 192,990km | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑤ 田根森小学校スクールバスNo.110 | (29人乗り) | H12.3月登録 | 247,587km | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑥ 雄物川北小学校スクールバスNo.54 | (46人乗り) | H12.9月登録 | 223,023km | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑦ 横手北中学校スクールバスNo.1392 | (29人乗り) | H6.7月登録 | 309,849km | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑧ 横手明峰中学校スクールバスNo. 376 | (29人乗り) | H15.3月登録 | 264,874km | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の実施状況 | <p>【経費内訳】・役務費 572 千円 ・備品購入費 69,842 千円 ・公課費 263 千円</p> <p>【 新規スクールバス 】</p> <table border="0"> <tr> <td>① 平鹿中学校スクールバスNo324</td> <td>(45人乗り)</td> </tr> <tr> <td>② 平鹿中学校スクールバスNo325</td> <td>(45人乗り)</td> </tr> <tr> <td>③ 平鹿中学校スクールバスNo326</td> <td>(45人乗り)</td> </tr> <tr> <td>④ 増田中学校スクールバスNo.1339</td> <td>(29人乗り)</td> </tr> <tr> <td>⑤ 田根森小学校スクールバスNo.1340</td> <td>(29人乗り)</td> </tr> <tr> <td>⑥ 雄物川北小学校スクールバスNo.323</td> <td>(45人乗り)</td> </tr> <tr> <td>⑦ 横手北中学校スクールバスNo.1373</td> <td>(29人乗り)</td> </tr> <tr> <td>⑧ 横手明峰中学校スクールバスNo. 1372</td> <td>(29人乗り)</td> </tr> </table> | | | ① 平鹿中学校スクールバスNo324 | (45人乗り) | ② 平鹿中学校スクールバスNo325 | (45人乗り) | ③ 平鹿中学校スクールバスNo326 | (45人乗り) | ④ 増田中学校スクールバスNo.1339 | (29人乗り) | ⑤ 田根森小学校スクールバスNo.1340 | (29人乗り) | ⑥ 雄物川北小学校スクールバスNo.323 | (45人乗り) | ⑦ 横手北中学校スクールバスNo.1373 | (29人乗り) | ⑧ 横手明峰中学校スクールバスNo. 1372 | (29人乗り) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ① 平鹿中学校スクールバスNo324 | (45人乗り) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② 平鹿中学校スクールバスNo325 | (45人乗り) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③ 平鹿中学校スクールバスNo326 | (45人乗り) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ④ 増田中学校スクールバスNo.1339 | (29人乗り) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑤ 田根森小学校スクールバスNo.1340 | (29人乗り) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑥ 雄物川北小学校スクールバスNo.323 | (45人乗り) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑦ 横手北中学校スクールバスNo.1373 | (29人乗り) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑧ 横手明峰中学校スクールバスNo. 1372 | (29人乗り) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> ・登下校における円滑な運行、児童生徒の交通・防犯も含めた安全確保、保護者の負担軽減が図られた。 ・スクールバスは、学校教育の一環として実施する対外競技大会や社会科見学などの校外活動にも活用しており、児童生徒の校外活動の充実が図られた。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 今後の課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後も老朽化した車両の年式、走行距離等を精査し、適切に更新する必要がある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|---|------|-------------|
| | | 分野 | 1. 学校教育の充実 |
| 項目 | (1) 学校施設の整備 | 担当部課 | 教育総務部 教育総務課 |
| 点検・評価対象事業名 | ④小中学校管理事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 31,345 千円 | | |
| 事業の目的 | 経年劣化や自然災害で傷んだ学校施設及び設備の改修により、児童・生徒の安全・安心で快適な学校生活環境を確保する。 | | |
| 事業の実施状況 | <p>【主な実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・増田中学校テニスコート改修工事 8,136千円 2面をグリーンサンド舗装並びに暗渠排水管の設置 ・横手南中学校グラウンド改修工事 8,362千円 グラウンドのクレー舗装並びに暗渠排水管の設置 ・浅舞小学校プール改修工事 1,239千円 老朽化したプール内底面を塩ビシートで防水 ・福地小学校暖房用セクショナル温水ボイラー修繕工事 1,276千円 ボイラー中間セクション等の取り替え ・栄小学校プールろ過機用ろ材取替工事 1,218千円 ろ過機ろ材全7層の取り替え ・十文字中学校物置小屋屋根修繕工事 1,197千円 屋根の部分葺き替えと塗装 | | |
| 事業の効果等 | 修繕及び工事の実施により、児童・生徒の安心・快適な教育環境の確保に結びつけることができた。 | | |
| 今後の課題・改善策 | 今後も緊急度等を検討しながら、改修工事を行い維持管理していく。 | | |

| | | | |
|-----------------------|--|-------------|-------------|
| | | 分野 | 1. 学校教育の充実 |
| 項目 | (1) 学校施設の整備 | 担当部課 | 教育総務部 教育総務課 |
| 点検・評価対象事業名 | ⑤再生可能エネルギー等導入事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 38,152 千円 | | |
| 事業の目的 | 災害時の避難所としての機能を強化するため、再生可能エネルギーを活用した太陽光発電システムを導入する。 | | |
| 事業の実施状況 | <p>平鹿中学校管理棟屋上へ太陽光発電システムを設置 太陽光発電設備 10KW 蓄電設備 15KW</p> <p>【停電時の非常用電源使用可能箇所】 職員室と屋内体育館</p> <p>【使用可能な機器等の目安】 ノートパソコン2台、固定電話2台、液晶テレビ2台、職員室照明50w12灯、職員室と屋内体育館に1000wコンセント各1か所</p> <p>・平成26年度施工予定6校の実施設計</p> <p>【小学校】 横手南小学校、増田小学校、大森小学校、山内小学校 【中学校】 横手南中学校、十文字中学校</p> | | |
| 事業の効果等 | 太陽光発電システムの導入により、停電時の非常用電源の確保に効果が見込める。 | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>市民生活部生活環境課が事業主体となり進めている「公共施設再生可能エネルギー等導入事業」に基づくもの。 避難場所となる小中学校において、非常時に必要最小限の電源を確保するための事業であり、今後も継続して事業を進めていく。</p> | | |

| | | 分野 | | 1. 学校教育の充実 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|-------------|--|------------|------------|-------------|-----------|-------------|--|------|------|------|------|------|------|----|-----|------------|------------|------------|------------|------------|-----------|-------------|-----|-----------|------------|------------|------------|------------|-----------|------------|
| 項目 | (1) 学校施設の整備 | | | 担当部課 | 教育総務部 教育総務課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 点検・評価対象事業名 | | ⑥コンピュータ整備事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象事業において支出した金額 | | 22,715 千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の目的 | | <p>情報教育の一環として、各小中学校のコンピューターを整備する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の実施状況 | | <p>コンピュータ教室の教育用パソコンを全校同一規格のものに更新した(60ヶ月リース)。また、更新の際に学校からの要望に基づき、授業支援システムを導入し、ネットワークを利用して先生と生徒が画面やファイルなどを相互にやり取りができるようにした。</p> <p>【配備台数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 643台 ・中学校 257台 <p>【年度別リース料】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>12,783,796</td> <td>22,491,069</td> <td>22,683,066</td> <td>22,875,062</td> <td>22,875,062</td> <td>9,531,276</td> <td>113,239,331</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>5,717,036</td> <td>10,059,411</td> <td>10,145,670</td> <td>10,231,930</td> <td>10,231,930</td> <td>4,263,304</td> <td>50,649,281</td> </tr> </tbody> </table> | | | | | | | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 合計 | 小学校 | 12,783,796 | 22,491,069 | 22,683,066 | 22,875,062 | 22,875,062 | 9,531,276 | 113,239,331 | 中学校 | 5,717,036 | 10,059,411 | 10,145,670 | 10,231,930 | 10,231,930 | 4,263,304 | 50,649,281 |
| | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小学校 | 12,783,796 | 22,491,069 | 22,683,066 | 22,875,062 | 22,875,062 | 9,531,276 | 113,239,331 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中学校 | 5,717,036 | 10,059,411 | 10,145,670 | 10,231,930 | 10,231,930 | 4,263,304 | 50,649,281 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の効果等 | | <p>パソコンの老朽化によるコンテンツの利用制約やハードウェア故障の解消に役立つとともに、授業支援システムを活用することにより、個々の児童生徒の状況を確認しながら授業を進めることができるようになった。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 今後の課題・改善策 | | <p>今回更新した教育用パソコンを有効に活用するために必要な維持管理を継続していく。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | 分野 | 1. 学校教育の充実 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|--|-------|-------------|--|------|------|------|-----|--------|-------|----|-------|-------|----|-----|-------|----|------|-------|-----|-----|-----|-------|---|------|-------|---|---------|-------|----|-----------|-------|---|
| 項目 | (1) 学校施設の整備 | 担当部課 | 教育総務部 教育総務課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 点検・評価対象事業名 | ⑦理科教育設備整備事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象事業において支出した金額 | 16,360 千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の目的 | <p>国の平成24年度補正予算等における理科教育設備整備補助金を活用し、小・中学校の理科備品、算数・数学備品を購入する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の実施状況 | <p>・理科における基本的な実験器具について、各学校の不足台数を調査。これに基づき、不足台数分の理科備品を下記のとおり購入した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>実験器具</th> <th>最低基準</th> <th>不足台数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">小学校</td> <td>上皿てんびん</td> <td>2人に1台</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>直流電流計</td> <td>4人に1台</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>顕微鏡</td> <td>2人に1台</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>電源装置</td> <td>4人に1台</td> <td>114</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">中学校</td> <td>顕微鏡</td> <td>2人に1台</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>電源装置</td> <td>4人に1台</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>双眼実体顕微鏡</td> <td>2人に1台</td> <td>51</td> </tr> <tr> <td>簡易霧箱実験セット</td> <td>1校に1台</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> <p>・小学校1校あたり16万8千円、中学校1校あたり50万円の範囲内で、上記以外の不足している理科備品、算数・数学備品を購入した（購入した備品は各学校で選択したもの）。</p> | | | | 実験器具 | 最低基準 | 不足台数 | 小学校 | 上皿てんびん | 2人に1台 | 64 | 直流電流計 | 4人に1台 | 75 | 顕微鏡 | 2人に1台 | 37 | 電源装置 | 4人に1台 | 114 | 中学校 | 顕微鏡 | 2人に1台 | 3 | 電源装置 | 4人に1台 | 5 | 双眼実体顕微鏡 | 2人に1台 | 51 | 簡易霧箱実験セット | 1校に1台 | 7 |
| | 実験器具 | 最低基準 | 不足台数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小学校 | 上皿てんびん | 2人に1台 | 64 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 直流電流計 | 4人に1台 | 75 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 顕微鏡 | 2人に1台 | 37 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 電源装置 | 4人に1台 | 114 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中学校 | 顕微鏡 | 2人に1台 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 電源装置 | 4人に1台 | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 双眼実体顕微鏡 | 2人に1台 | 51 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 簡易霧箱実験セット | 1校に1台 | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の効果等 | <p>・理科における基本的な実験器具について、各学校の不足している台数を充足することができた。</p> <p>・その他各校の不足している理科備品、算数・数学備品を充足することができた。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>・厳しい財政事情ではあるが、有利は補助制度等を活用しながら、理科備品等の整備をすすめていきたい。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|--|------|-------------|
| | | 分野 | 1.学校教育の充実 |
| 項目 | (1)学校施設の整備 | 担当部課 | 教育指導部 学校給食課 |
| 点検・評価対象事業名 | ⑧学校給食センター統合事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 1,320,995 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>現在、小学校と中学校に7ヶ所の給食センターで学校給食を提供しているが、その施設・設備の老朽化により、衛生管理や施設維持管理に要する経費が増加してきている。また、児童・生徒数の減少等による学校統合計画が推進されている。</p> <p>そこで、適正な規模で安定的に安心安全な学校給食を提供できる新たなセンターが必要となる。既設センターの統廃合を実施し、平成26年度から4ヶ所のセンターで給食事業を運営する。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○建築本体工事完了(H26.1.31) ○機械設備工事完了(H26.1.31) ○電気設備工事完了(H26.1.31) ○建築工事(外構工事)完了(H26.3.19) ○備品等の整備完了(H26.3.31) | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食衛生管理基準に適合した施設での給食提供が可能となる。 ・既設センターの統廃合により、施設管理経費と運営経費の削減につながる。 ・児童・生徒や保護者等に対する食育等をセンター内で実施することができる。 | | |
| 今後の課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・地場産物の使用を促進するため、納入事業者や農家会等と引き続き協議が必要である。 ・センター廃止となった地域の食材の納入事業者の納入状況等を確認する。 | | |

| | | | |
|----------------|---|------|-------------|
| | | 分野 | 1. 学校教育の充実 |
| 項目 | (2) 教育環境の整備 | 担当部課 | 教育指導部 教育指導課 |
| 点検・評価対象事業名 | ①英語指導助手招へい事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 35,617 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>外国語指導助手(ALT)を小・中学校に派遣し、外国語活動や外国語の授業補助を行うことを通して、児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上と国際理解教育の充実を図る。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>・中学校の規模に応じて、月に1～4週間程度、ALTを派遣している。指導案や教材作りから英語科教員と関わり、指導法の工夫改善に取り組んでいる。授業以外にも学校行事をはじめとする諸活動に参加し生徒はもちろん教職員とも関わりながら、コミュニケーションを図っている。</p> <p>・毎年9月に行われている「横手市中学校英語暗唱弁論大会」に出場する生徒の指導に当たっている。</p> <p>・「英語検定」の2次試験(英語による面接)等を受験する生徒に対する指導を行っている。</p> <p>・小学校では高学年を中心に、年20時間、学級担任とのティーム・ティーチングによる外国語活動の授業を行った。1年生から4年生の英語活動の指導にも当たっている。</p> <p>・年4回のALT研修会では、全員が持ち回りで授業実践に関する発表を行い、指導力向上を図った。</p> | | |
| 事業の効果等 | <p>・中学校では英語によるコミュニケーション能力の基礎を養うために、ALTを有効に活用している。生徒がALTとコミュニケーションを図ることにより、英語学習への意欲が高まっているほか、授業以外の諸活動を通じたALTとの関わりが、日常生活レベルの国際交流となっている。</p> <p>・夏季休業中や放課後もALTが積極的に「英語暗唱弁論大会」や「英語検定」に向けての指導補助に当たっている。自然な英語表現や発音等の指導により、英語科教員の大きな手助けとなっている。</p> <p>・小学校外国語活動では、英語の音声や表現の面だけでなく、体験的な異文化理解を推進しコミュニケーションへの積極的な態度を養っていく上でALTが欠かせない存在となっている。各学校からのALTの派遣希望が非常に多い。</p> <p>・中学校配置を基本とするALTが当該中学校区の小学校外国語活動に加わり、児童生徒の理解が進み、中学校における英語学習への円滑な移行が見られるようになってきた。</p> <p>・ほとんどの学校で、校内にALTが担当する掲示板を設置しており、季節や行事に合わせた英語による掲示物等が、生徒の異文化理解を促進する効果的な学習環境となっている。また、ALTが独自に季刊会報を発行し、各小・中学校に掲示することで、ALTと教師間、ALTと児童生徒間の相互理解を深める一助となっている。</p> | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>・市内中学校の統合により、平成24年8月から外国語指導助手の総数が1名減となった。平成23年度より全面実施となった小学校外国語活動では学級担任を核とした、外国語指導助手とのティーム・ティーチングによる指導が望ましいことから、小学校担当のALTのみならず、中学校に配置されているALTも派遣して弾力的な活用を行って指導の充実を図りたい。</p> <p>・小学校外国語活動のねらいや指導法について、ALTに対する研修を継続的に行い、より効果的なティーム・ティーチングができるようにしていく。</p> <p>・現在のALT派遣体制の成果から、地域人材の指導者活用が喫緊の課題とはならなかったが、ひらかれた学校づくりの観点から、地域の人材活用等についても検討を進めたい。</p> | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|--|-------|-------------|--------------|-----|-----|-----|-----|-------|-------|-------|-------|--------------|-----|-----|----|----|----|----|
| | | 分野 | 1. 学校教育の充実 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 項目 | (2) 教育環境の整備 | 担当部課 | 教育指導部 学校教育課 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 点検・評価対象事業名 | ②奨学金貸付事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象事業において支出した金額 | 30,187 千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の目的 | <p>修学の意欲があるにもかかわらず経済的な理由により修学が困難な学生に学資を貸し付け、社会の有用な人材を育成する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の実施状況 | <p>○貸し付け状況 (高等学校 @2万円/月、短大・大学等 @4万円/月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規22人、継続者44人、計66人に対し貸付を実施した。 ・地域内訳 <table border="0"> <tr><td>横手</td><td>23人</td></tr> <tr><td>増田</td><td>6人</td></tr> <tr><td>平鹿</td><td>7人</td></tr> <tr><td>雄物川</td><td>6人</td></tr> <tr><td>大森</td><td>7人</td></tr> <tr><td>十文字</td><td>12人</td></tr> <tr><td>山内</td><td>2人</td></tr> <tr><td>大雄</td><td>3人</td></tr> </table> ・貸付額 29,840 千円 <p>○償還金滞納者の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話や訪問による納付相談の実施。 ・状況に応じ、分割納付等の対応。 | | | 横手 | 23人 | 増田 | 6人 | 平鹿 | 7人 | 雄物川 | 6人 | 大森 | 7人 | 十文字 | 12人 | 山内 | 2人 | 大雄 | 3人 |
| 横手 | 23人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 増田 | 6人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平鹿 | 7人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 雄物川 | 6人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大森 | 7人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 十文字 | 12人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 山内 | 2人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大雄 | 3人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> ・貸付の実施により社会の有用な人材の育成につながったものと思われる。 ・滞納繰越分の収納率は前年度より若干向上した。今後も電話や訪問による対策を粘り強く行っていく。 ・滞納繰越分収納率の推移 <table border="0"> <tr> <td>H21</td> <td>H22</td> <td>H23</td> <td>H24</td> <td>H25</td> </tr> <tr> <td>28.1%</td> <td>31.5%</td> <td>26.6%</td> <td>26.5%</td> <td>32.1%</td> </tr> </table> | | | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | 28.1% | 31.5% | 26.6% | 26.5% | 32.1% | | | | | | |
| H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 28.1% | 31.5% | 26.6% | 26.5% | 32.1% | | | | | | | | | | | | | | | |
| 今後の課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・新規貸付については今後も適正な審査のもとで継続していく。 ・滞納者への文書、電話による納付相談並びに自宅訪問により、納付意識の喚起を図る。 ・徴収困難案件の今後の対応を再度協議し、関係部局とも連携しながら収納率の更なる向上を目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|--|------|-------------|
| | | 分野 | 1. 学校教育の充実 |
| 項目 | (2) 教育環境の整備 | 担当部課 | 教育総務部 教育総務課 |
| 点検・評価対象事業名 | ③就園奨励事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 20,902 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>保護者の就園に対する経済的負担を所得状況に応じて軽減することを目的として、入園料及び保育料を軽減している。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>対象幼稚園数 市内4幼稚園 (上宮第一幼稚園・上宮第二幼稚園・土屋幼稚園・こひつじ幼稚園) 市外2幼稚園 (湯沢若草幼稚園・双葉幼稚園)</p> <p>対象園児数 201名(被災幼児1名含む) 内訳 満3歳児 18名 3歳児 64名 4歳児 57名 5歳児 62名</p> <p>○特定財源「幼稚園就園奨励費補助金」(国) 5,091千円 ○特定財源「被災幼児就園支援事業補助金」(県) 192千円</p> | | |
| 事業の効果等 | <p>保護者の就園に対する経済的負担が軽減され、安心して子どもを就園させることができた。</p> | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>就学前教育の重要性並びに子育て支援の観点から、国・県の補助金を活用しながら、引き続き助成を行っていく。</p> | | |

| | | | |
|----------------|--|------|-------------|
| | | 分野 | 1. 学校教育の充実 |
| 項目 | (2) 教育環境の整備 | 担当部課 | 教育総務部 教育総務課 |
| 点検・評価対象事業名 | ④すこやか子育て支援事業 (ひとり親家庭児童保育援助費補助事業含む) | | |
| 対象事業において支出した金額 | 9,444 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>社会全体で子育てを支えていくという考えのもと、子どもの幼稚園等への入園に伴う子育て家庭の経済的負担を軽減するため、保護者の所得状況に応じて、保育料等(入園料、保育料、教材費、絵本代、給食費など)の減免を行い、安心して子どもを育てることができる環境を整える。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>対象幼稚園数 市内4幼稚園 (上宮第一幼稚園・上宮第二幼稚園・土屋幼稚園・こひつじ幼稚園) 市外2幼稚園 (湯沢若草幼稚園・双葉幼稚園)</p> <p>対象園児数 163名 内訳 満3歳児 15名 3歳児 49名 4歳児 51名 5歳児 48名</p> <p>○特定財源「保育料助成事業費補助金」(県) 5,122千円 ○特定財源「ひとり親家庭児童保育料助成事業費補助金」(県) 514千円</p> | | |
| 事業の効果等 | <p>子育て家庭の経済的負担を軽減することにより、安心して子どもを生き育てることができる環境整備ができた。</p> | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>就学前教育の重要性並びに子育て支援の観点から、県の補助金を活用しながら、引き続き助成を行っていく。</p> | | |

| | | | | | | | | | | | |
|----------------|--|------|-------------|-----|-----------|------|-----------|-----------|----------|--------|----------|
| | | 分野 | 1. 学校教育の充実 | | | | | | | | |
| 項目 | (2) 教育環境の整備 | 担当部課 | 教育指導部 学校教育課 | | | | | | | | |
| 点検・評価対象事業名 | ⑤学校保健管理事業 | | | | | | | | | | |
| 対象事業において支出した金額 | 44,260 千円 | | | | | | | | | | |
| 事業の目的 | <p>学校保健安全法に基づき、児童生徒及び教職員の健康の保持増進を図り、学校教育を円滑に行うために、児童生徒及び教職員の健康状態の正しい実態を把握するとともに、健康状態の実態を踏まえた指導、教育を行う。</p> | | | | | | | | | | |
| 事業の実施状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校医の委嘱及び報酬の支払い。 ・児童生徒及び教職員の各種健康診断の実施及び業務委託。 ・就学時健康診断の実施及び事後措置。 ・小児生活習慣病予防検診の実施。 ・各種健康診断・検診に係る関係機関との日程調整の実施。 ・老朽化で使用不能となった聴力検査機器を年次的に更新し、所有していない学校へ貸出す。 ・児童生徒健康診断用器具(鼻鏡、耳鏡)や滅菌するための機器等購入。 <p>【主な経費】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・報酬</td> <td style="text-align: right;">23,024 千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・委託料</td> <td style="text-align: right;">16,823 千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・使用料及び賃借料</td> <td style="text-align: right;">1,138 千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・備品購入費</td> <td style="text-align: right;">2,514 千円</td> </tr> </table> | | | ・報酬 | 23,024 千円 | ・委託料 | 16,823 千円 | ・使用料及び賃借料 | 1,138 千円 | ・備品購入費 | 2,514 千円 |
| ・報酬 | 23,024 千円 | | | | | | | | | | |
| ・委託料 | 16,823 千円 | | | | | | | | | | |
| ・使用料及び賃借料 | 1,138 千円 | | | | | | | | | | |
| ・備品購入費 | 2,514 千円 | | | | | | | | | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒及び教職員の健康保持増進により、学校教育の円滑な実施が図られた。 | | | | | | | | | | |
| 今後の課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒及び教職員の健康管理は重要であり、継続して実施する必要がある。 ・小児生活習慣病予防の啓発を行うとともに、関係機関と連携し効率的な予防対策を実施する。 | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|----------------|---|------|-------------|------|-----------|------|------------|----|------|
| | | 分野 | 1.学校教育の充実 | | | | | | |
| 項目 | (2)教育環境の整備 | 担当部課 | 教育指導部 教育指導課 | | | | | | |
| 点検・評価対象事業名 | ⑥教育相談事業 | | | | | | | | |
| 対象事業において支出した金額 | 2,856 千円 | | | | | | | | |
| 事業の目的 | <p>学校や家庭における人間関係の希薄化、価値観の多様化及びコミュニケーションの不足等に伴って、悩みや不安を抱える児童生徒が増えていることから、不登校適応指導教室「南かがやき教室」に教育相談員を配置し、児童生徒が悩みを打ち明けられる場所を提供するとともに相談に応じる。また専任指導員と連携しながら学校復帰を目指し入級している児童生徒に対する支援を行う。</p> | | | | | | | | |
| 事業の実施状況 | <p>・児童生徒とその保護者だけではなく、教職員、専門機関職員等の相談にも随時応じている。本市に配属された初任者に研修の一環として講話を行った。</p> <p>・教育相談の内容としては、多い順に不登校(187件)、本人の性格・行動(141件)、進路(35件)となっている。</p> <p>・教育相談の相談者は、学校(310件)、家族(203件)、本人(138件)となっている。</p> <p>・平成25年度実績 教育相談件数 ・()の数値は前年度との比較</p> <table border="0"> <tr> <td>電話相談</td> <td>536件(-5件)</td> </tr> <tr> <td>面接相談</td> <td>189件(+18件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>725件</td> </tr> </table> <p>・複数相談者及び一人で複数回の相談を含む。</p> | | | 電話相談 | 536件(-5件) | 面接相談 | 189件(+18件) | 合計 | 725件 |
| 電話相談 | 536件(-5件) | | | | | | | | |
| 面接相談 | 189件(+18件) | | | | | | | | |
| 合計 | 725件 | | | | | | | | |
| 事業の効果等 | <p>・本事業が児童生徒とその保護者、学校に広く浸透していること、専任指導員及び教育相談員の真摯な対応が教育相談の内容、相談者、件数からも見て取れる。教育相談や適応指導教室での指導助言をきっかけに明るく前向きな生活を送ろうとする児童生徒も多くなった。</p> | | | | | | | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>・不登校に関わる相談件数の多さからもわかるように、不登校は本市が解決すべき喫緊の課題の一つと言える。不登校の原因として最初のきっかけは1つでもあったとしても、その期間が長ければ、解決の糸口や道筋はなかなか見えづらくなりがちである。教育相談員一人の対応に終始することなく、学校をはじめ、必要に応じて医療機関や保健機関等との連携を図っていく体制づくりを一層すすめていく必要がある。</p> | | | | | | | | |

| | | 分野 | 1.学校教育の充実 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|--|------|-------------|------|----|-----|-----|----|-----|------|----|----|----|----|----|----|---|----|-----|---|----|-----|---|----|-------|---|----|------|---|----|-----|-----|-----|----|-----|----|
| 項目 | (2)教育環境の整備 | 担当部課 | 教育指導部 教育指導課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 点検・評価対象事業名 | ⑦「心の教室相談」事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象事業において支出した金額 | 507 千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の目的 | <p>中学生による問題行動の続発が社会問題になっているが、こうした問題行動を起こす要因の一つとして、生徒たちに悩みや不安、ストレス等がたまっていることが考えられる。また、いじめや不登校の問題も憂慮すべき状況にある。</p> <p>このため、生徒の身近にいて、生徒が悩み等を気軽に話せ、ストレスを和らげることのできる「心の教室相談員」を中学校に配置し、生徒が心のゆとりをもつことができるような相談活動の充実に資する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の実施状況 | <p>・横手北中学校と山中中学校に相談員各1名を配置した。一人あたり、原則として週2回、年間256時間、主に生徒と相談を行い、生徒の悩みや不安、ストレスの解消と学校の相談体制の充実に図った。</p> <p>25年度実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>相談内容</th> <th>件数</th> <th>前年比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不登校</td> <td>29</td> <td>+21</td> </tr> <tr> <td>友人関係</td> <td>11</td> <td>+9</td> </tr> <tr> <td>学業</td> <td>21</td> <td>+6</td> </tr> <tr> <td>進路</td> <td>3</td> <td>+3</td> </tr> <tr> <td>部活動</td> <td>8</td> <td>+7</td> </tr> <tr> <td>いじめ</td> <td>0</td> <td>-1</td> </tr> <tr> <td>性格・行動</td> <td>0</td> <td>-4</td> </tr> <tr> <td>家庭問題</td> <td>0</td> <td>-2</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>263</td> <td>+51</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>335</td> <td>90</td> </tr> </tbody> </table> <p>「その他」の具体的な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ面談 ・学校生活全般についての個人面談 ・校内巡視等による生徒の生活全般についての相談 | | | 相談内容 | 件数 | 前年比 | 不登校 | 29 | +21 | 友人関係 | 11 | +9 | 学業 | 21 | +6 | 進路 | 3 | +3 | 部活動 | 8 | +7 | いじめ | 0 | -1 | 性格・行動 | 0 | -4 | 家庭問題 | 0 | -2 | その他 | 263 | +51 | 合計 | 335 | 90 |
| 相談内容 | 件数 | 前年比 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 不登校 | 29 | +21 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 友人関係 | 11 | +9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学業 | 21 | +6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 進路 | 3 | +3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 部活動 | 8 | +7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| いじめ | 0 | -1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 性格・行動 | 0 | -4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 家庭問題 | 0 | -2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他 | 263 | +51 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 335 | 90 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の効果等 | <p>・相談員が気軽に声をかけて悩みを打ち明けやすい環境づくりを心掛けたことで、訪れる生徒が増加した。</p> <p>・生徒から得た情報を速やかに教職員と共有することで、適切な対応をすることができた。</p> <p>・友人関係を築くことの苦手な生徒が、定期的に相談することで以前に比べ自分をうまく表現できるようになり、行事等で活躍する場面も見られるようになった。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>・限られた時間の中で、生徒及び学校にとってより効果的な相談計画をどのように立案するかが課題である。</p> <p>・相談員との情報交換の場を定期的に設けるなどして、校内対策委員会との一層の連携強化を促していく。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|---|------|-------------|
| | | 分野 | 1.学校教育の充実 |
| 項目 | (2)教育環境の整備 | 担当部課 | 教育指導部 教育指導課 |
| 点検・評価対象事業名 | ⑧不登校適応指導教室事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 1,657 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>長期欠席の児童生徒の学校復帰を支援するとともに、長期欠席の児童生徒をもつ保護者の支援に当たるため、専任指導員を配置した横手市不登校適応指導教室「南かがやき教室」を設置する。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>・不登校の児童生徒の悩みに寄り添い、安心してそれを打ち明けられる場を提供するとともに、児童生徒の立場に立って、人格や人命を尊重した温かな相談と適応指導を行っている。 ・共感的な理解に立ち、悩みを抱える児童生徒の自立を支援する立場からの相談はもとより、保護者や教職員の相談にも随時対応している。 ・学習指導に関しては、当該校とも連絡をとりながら児童生徒の実情を踏まえ個別指導を行っている。また、豊かな人間関係づくりを目指した集団活動や体験活動も取り入れている。</p> <p>平成25年度実績 入級者数 10名(小学校2名 中学校8名) ※新規入級者3名(小1中2)、他に体験通級の児童・生徒が10名(小5、中5)がいる。</p> | | |
| 事業の効果等 | <p>・通級することで、心の居場所を学校や家庭以外の場所でも得ることができた。豊かな人間関係を構築できるような活動を随所に盛り込むことで、前向きに毎日を過ごす様子がうかがわれ、学校復帰や高校進学等への意欲付けにつながっている。また、2名の児童生徒(小1名、中1名)が、学校復帰することもできた。</p> <p>【25年度の主な集団活動・体験活動例】 遺跡発掘体験・なべっこ会・ALTとの交流会・長期休業中学習会・卒業を祝う会 他 ・学校や保護者に対する専門的な指導や助言、啓発を行うことができた。また、本人や保護者の意向を踏まえつつ、在籍校との連絡、情報交換を密にすることで、児童生徒の学校復帰がスムーズに行うことができた。</p> | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>・不登校の要因が、例えば児童生徒個人に起因するものから、学校や家庭の関わりや対人関係等、外的なものに起因するものまで多様化している今日、適応指導教室の担当者2名だけで対応できない事案も増えることが予想される。より適切な指導、支援を行うために、専門的な知識や経験を有する医師やカウンセラー、福祉担当者等から継続的に連携を図っていく体制を構築することが今後の課題である。</p> | | |

| | | | |
|----------------|---|------|-------------|
| | | 分野 | 1. 学校教育の充実 |
| 項目 | (2) 教育環境の整備 | 担当部課 | 教育指導部 教育指導課 |
| 点検・評価対象事業名 | ⑨ 学校生活サポート事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 54,056 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>小・中学校において、特別な教育的支援を必要とする児童生徒及び日本語指導支援を必要とする児童生徒に対して支援員(非常勤職員)を配置し、学校生活の支援を行う。</p> <p>【特別支援教育支援員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい等により特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対し、学校生活を送るために必要な支援を行う。 <p>【日本語指導支援員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語が不自由な帰国子女や外国籍の児童生徒に対し、学校生活を送るために必要な日本語指導や生活習慣等の支援を行う。 | | |
| 事業の実施状況 | <p>【特別支援教育支援員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・19校に40名の特別支援教育支援員を配置(小学校16校37名、中学校3校3名) ・対象となる児童生徒は約110名(小学校約100名、中学校約10名) ・各校児童生徒の実態に応じた支援員の適正配置のため、特支専任指導主事による配置校訪問や就学時健診の立会いによる実態把握、各校の支援対象児童生徒調査や支援員勤務状況調査を実施 <p>【日本語指導支援員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝倉小学校に1名、十文字第一小学校に1名、計2名の日本語指導支援員を配置 ・対象となる児童は5名(朝倉小学校4名、十文字第一小1名) | | |
| 事業の効果等 | <p>【特別支援教育支援員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内支援体制の整備、学級担任と支援員との連携等により、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対し、実態に応じた適切な支援を行うことができた。 ・学級担任の負担を軽減することができ、学級担任による他の児童生徒への指導の充実、円滑な学級運営等を図ることができた。 <p>【日本語指導支援員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導が必要な児童生徒の様々な不安を軽減し、安定した学校生活を送ることができるようになった。 ・児童生徒間の交流を促進する担い手となり、異文化に対する興味・関心を高めたり、理解を促進したりすることができた。 | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>【特別支援教育支援員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な教育的支援を必要とする児童生徒が増加傾向にある。特に、通常の学級に在籍しながら特別な教育的支援を希望する保護者のニーズが高くなっている。 ・特別支援教育支援員の人材確保及び要支援児童生徒在籍校への適切な配置をより一層進める必要がある。 <p>【日本語指導支援員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導支援の対象となる児童生徒の前在住国は、インド、フィリピンであり、母国語も異なる。日本語を指導する上で、これら児童生徒の母国語を理解する必要があり、日本語指導支援員には専門性が求められる。今後は、ハローワーク等の関係機関とさらに連携し、専門性を有する人材を確保する必要がある。 | | |

| | | | |
|----------------|---|------|-------------|
| | | 分野 | 1. 学校教育の充実 |
| 項目 | (2) 教育環境の整備 | 担当部課 | 教育指導部 教育指導課 |
| 点検・評価対象事業名 | ⑩次世代ものづくり人材育成事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 211 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>理科離れや若年層の高い離職率が危惧される今日、これまでの日本の産業を支えてきた「ものづくり」の技術とその土台となる「科学」に対する子どもたちの興味・関心を高めることは重要な今日的課題の一つである。そこで、地域人材や理科教員等の支援を受けて観察・実験やものづくりなどの活動の充実を図ること、製造業をはじめとする各種職業のもつ高度な技術を見学したり、実際に現場で体験する活動(職場体験学習)を行ったりすることが大切になる。このようなものづくりを中心とした理科的な学習、職業に関する学習が子どもたちの望ましい職業観や勤労観の育成につながることを目指している。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>○科学お楽しみ広場 児童の科学に対する興味・関心を高め、観察・実験やものづくりなどの活動に親しむ場を設けるとともに、理科教員の理科の指導力向上を図るための研修の場として実施。 ※平成25年度は田根森小学校を会場(7/26:夏休み中)に、科学実験等11ブースを設けて実施。 ※横手市内の小学3～6年生を対象にし、146名の児童が参加。</p> <p>○職場体験受入事業所(“未来体験”応援団)の整備 教育委員会が中心となり、関係行政機関や商工会と連携して体験活動ネットワークを整備。 ※平成26年度職場体験受入登録事業所(“未来体験”応援団)数は、167事業所。</p> <p>○小学生職場見学バスツアー 職場で働く人々とのふれ合いを通して、児童の仕事に対する関心を高めるとともに、望ましい職業観・勤労観の育成を図るために実施。 ※横手市内の小学3～6年生を対象にし、昨年度は41名の児童が参加(当日は4名の児童が欠席)。 ※平成25年度は、秋田市の秋田火力発電所・JR秋田駅・大森山動物園への訪問を実施。</p> | | |
| 事業の効果等 | <p>○科学お楽しみ広場 ・実施後の参加児童のアンケート結果によると、93%の児童が「とても楽しかった」「また参加したい」と回答した。 ・市内の理科教員による企画実験の他、博士号教員や秋田大学社会貢献推進室、フェライト科学館等と連携しながら最新の科学に触れる場を用意し、児童の知的好奇心の高揚を図ることができた。</p> <p>○職場体験受入事業所(“未来体験”応援団)の整備 ・市内全中学校が夏休みを中心とした職場体験学習の際に登録事業所を活用し、1校あたり平均3.0日間実施した。また、受入事業所は、地域密着型の事業所として社会貢献活動を行うことができ、参加生徒を通して事業所の認知度と企業価値を高めることができた。</p> <p>○小学生職場見学バスツアー ・実施後の参加児童のアンケート結果によると、97%の児童が「とても楽しかった」「楽しかった」と回答しており、92%の児童が「また参加したい」と回答した。また、「とにかく目標をしっかりと設定して、これから頑張りたいと思います。」「将来の夢に向かって、楽しく頑張りたいです。」「いろいろなことを勉強して、様々なことにチャレンジしていきたいです。」などの感想が多くあり、自分の生き方についての考えの深まりが見られた。</p> | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>○キャリア教育の推進について ・平成25年度実施した「横手市キャリア教育研修会」を引き続き実施することにより、学校と職場体験受入先との意識のずれの解消をなお一層図るとともに、小・中学校と企業との橋渡しを行う必要がある。併せて、キャリア教育における職場体験の位置づけや各学校の職場体験のねらいを職場体験受入事業所に知らせることを通して、職場体験に対する理解を一層深める必要がある。</p> <p>○科学お楽しみ広場について ・横手市内に止まらず、市外の企業とも連携するなどして、地域人材の支援を広く受けながら、なお一層の観察・実験やものづくりなどの活動の充実を図る。</p> | | |

| | | | |
|----------------|---|------|-------------|
| | | 分野 | 1.学校教育の充実 |
| 項目 | (2)教育環境の整備 | 担当部課 | 教育指導部 教育指導課 |
| 点検・評価対象事業名 | ⑪スクールガード・リーダー配置事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 788 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>学校や通学路における事件・事故が大きな問題となっていることから、地域の学校安全ボランティアを活用するなどして地域社会全体で学校安全に取り組むことが求められている。そこで、3名のスクールガード・リーダー(SGL)を市内に配置し、学校の安全体制に対する指導・助言や学校安全ボランティアの見守り活動への支援を行う。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>・担当地区(小学校)を3人で分担し、月1回程度(3人で年間延べ259回、そのうち県の事業としての訪問は72回)、市内の各小学校を訪問した。期日についてはSGLの都合と学校の希望を調整しながら決定した。</p> <p>【主な指導内容】 学校の安全体制の評価と指導(校舎、通学路の安全点検を含む) 登下校時における児童への巡回指導 防犯、防災の避難訓練や交通安全教室等における児童を対象にした指導講話 県内不審者事案や通学区内における危険箇所等の情報提供 管理職、安全教育担当者との情報交換 スクールガード養成講習会(8月)での話題提供 他</p> <p>・SGL情報交換会(4月、8月、1月)を開催し、各校の安全体制及び指導内容等について情報交換するとともに、今後の対応等について協議した。</p> | | |
| 事業の効果等 | <p>・学校の求めに応じた期日や時間で活動を進めることができ、事故事件等の未然防止につながっている。</p> <p>・管理職や安全教育担当との懇談や情報交換の場を学校で設けてもらうことにより、学校と連携して事業を推進することができた。</p> <p>・スクールガード養成講習会を実施し、学校関係者、地域関係者、関係機関等が一堂に会し地域ぐるみで子どもたちの安全安心を目指した取組について協議や情報交換を行った。</p> | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>・学校安全ボランティアの登録人数が減少傾向にある。小学校の統合により、これまで活動の根底に脈々とあった「自分たちの学校」「地域の学校」という意識が少しずつ薄くなっていることも要因の1つと考えられる。組織の拡大を図り、見守り活動の充実に向けた積極的な働きかけが必要となる。併せて、児童にも「自分の命は自分で守ることを徹底させ、危険予測能力・回避能力を身に付けさせるよう、学校現場での指導の充実も大切である。</p> | | |

| | | | |
|----------------|--|------|-------------|
| | | 分 野 | 1. 学校教育の充実 |
| 項 目 | (2)教育環境の整備 | 担当部課 | 教育指導部 教育指導課 |
| 点検・評価対象事業名 | ⑫言語活動の充実による学力向上推進事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 1,122 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>平成21～23年度事業「言語活動の充実に係る研究指定事業」の成果と課題を踏まえ、言語活動の充実に視点を当てた教育活動により、本市児童生徒の基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と、その活用による思考力・判断力・表現力等を含む確かな学力の育成を目指す。</p> <p>そのために、研究指定校を設けて研究推進の具現化を図り、市内小・中学校間での研究成果の共有化を図るとともに、市教委として必要な支援や環境整備を行うものである。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>【平成24・25年度研究指定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平鹿中学校区内の吉田小・醍醐小2校において、プレ公開研究会を開催(6月)。それに先駆けて、外部講師を招聘し、同指定校区全職員対象の事前研修会を実施した。 市内全小・中教員、県内外から合計550名弱の参加者を迎えて、増田小・増田中・平鹿中・浅舞小の4校を会場に、公開研究会を開催した(11月)。 <p>【平成25・26年度研究指定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究指定校として横手北中学校区5校、横手明峰中学校区7校の計12校に委嘱し、小・中連携を重視した研究推進体制の確立を目指すとともに、外部講師を招いての事前研修会を実施し、学力向上に向けた授業改善の取組を促進した。 <p>【研究紀要等による成果の発信・共有化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究指定校18校を含め、それ以外の全小・中学校に「言語活動の充実による確かな学力の育成」に向けた自校における実践の報告を求め、市の研究紀要としてまとめ発行するとともに、横手市教育センターHPにも掲載した。 | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> 小・中連携による相互授業参観、プレ公開研究会・公開研究会等を通じて、「言語活動の充実」に関する理解が深まるとともに、実践的な授業改善の方策が広く発信・共有化され、市全体の授業力向上に結び付いている。 思考力・判断力・表現力等の育成を目指した指導構想、児童生徒主体の授業の構築を主眼とした研究推進の深まりにより、自らの考えを積極的に発信し、多様な見方・考え方をもとに課題解決を図ろうとする学びの姿が見られるようになった。 中学校区単位で小中9年間を見通すことにより、地域や各校の実態を踏まえながら、発達段階に応じた指導の在り方・目指す子どもの姿について、より一層、明確にすることができた。 | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>【研究指定校の評価に基づく課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 重点教科にとどまらず、横断的、縦断的に汎用していく「言語活動の充実」を目指すこと。 授業のねらい、身に付けたい力を明確にした指導と評価の充実。 言語の能力を高め、主体的な課題解決の実現に資する学校図書館有効利活用の促進。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 成果を市の内外に発信する3校公開研究会(7月)、公開研究会(10月)に向けた一層の研究推進。 「言語活動の充実」に資する学校図書館の有効利活用に関する研修会の実施。 | | |

| | | | |
|----------------|--|------|-------------|
| | | 分野 | 1. 学校教育の充実 |
| 項目 | (2) 教育環境の整備 | 担当部課 | 教育指導部 教育指導課 |
| 点検・評価対象事業名 | ⑬就学前言語障害児指導事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 2,761 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>就学前の幼児を対象に、主にことばの発達に関する指導支援を行い、関係機関との協力や連携を図りながら、子どもの発育・成長及び保護者の子育てを支援する。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>○対象児 ・原則として横手市に居住する就学前の言語発達障害幼児</p> <p>○実施場所 ・横手市醍醐公民館1階「幼児ことばの教室」</p> <p>○実施時間及び期間 ・基本的には午前9時から午後4時までとし、火曜日から金曜日まで週4日間開設をする。 小中学校の夏季・冬季休業中は開設をしない。 ・個別の指導日等については指導員と協議の上決定する。</p> <p>○面接した幼児(平成25年度) 58名 (内訳)通級対象とした幼児 17名 経過観察とした幼児 41名</p> | | |
| 事業の効果等 | <p>○通級対象幼児17名について ・H25年度で指導終了 15名 ・H26年度も指導継続 2名</p> <p>○経過観察幼児41名について ・H25年度で観察終了 30名 ・H26年度も観察継続 11名</p> | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>・定期的に情報交換の場を設けるなどして横手市児童発達支援事業「モモの家」、朝倉小学校通級指導教室等との連携を図り、情報の共有化に努めたい。</p> <p>・3～4歳児に対する効果的な指導の在り方、発達障害等が疑われる幼児への指導・相談の在り方等に難しさがある。「県南ことば・きこえ・通級指導教室連絡協議会」主催の研修会等の機会を活用するなどして言語指導員の専門性を高めていきたい。</p> | | |

| | | | |
|----------------|---|------|-------------|
| | | 分野 | 1. 学校教育の充実 |
| 項目 | (2) 教育環境の整備 | 担当部課 | 教育指導部 学校教育課 |
| 点検・評価対象事業名 | ⑭通学援助事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 1,940 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>スクールバスが運行されていない地域の児童生徒の通学に要する経費を補助し、通学上の安全確保及び義務教育の円滑な実施を図る。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>○朝倉小学校 路線バスの定期購入額について補助。 (3km以上 全額、3km未満 半額) 対象者27人 761 千円 (前年度比1人増、+3千円)</p> <p>○山内中学校 路線バスの定期購入額について補助。 (片道2,500円、往復5,000円を超える額) 鉄道の定期購入額について補助。 対象者23人 1,052 千円 (前年度比人数増減なし、△91千円)</p> <p>○金沢小学校 路線バスの定期購入額について補助。 (4km以上 半額) 対象者9人 127 千円 (前年度比2人減、△8千円)</p> | | |
| 事業の効果等 | <p>・児童生徒の登下校の安全確保及び義務教育の円滑な実施が図られた。</p> | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>・補助金だけの問題ではなく、学校統合も視野に入れた市全体の通学援助体制の検討が必要である。</p> | | |

| | | | |
|----------------|---|------|-------------|
| | | 分野 | 1. 学校教育の充実 |
| 項目 | (2) 教育環境の整備 | 担当部課 | 教育指導部 学校教育課 |
| 点検・評価対象事業名 | ⑮特別支援教育就学奨励事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 2,778 千円 | | |
| 事業の目的 | 特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者の経済的な負担軽減を図る。 | | |
| 事業の実施状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食費 半額 ・通学費 公共交通機関を利用し、最も経済的な方法で通学する場合の交通費 全額 ・修学旅行費 均一に負担すべき経費 半額 ・校外活動費 学校行事として参加し、一律に負担する経費 国が定める基準額以内 ・学用品費 通常必要とする学用品 国が定める基準額以内 ・新入学用品費 入学者が通常必要とする学用品、通学用品費 国が定める基準額以内 ・体育実技用具費 通常必要とする体育実技用品 国が定める基準額以内 ・対象者 小学校50人 扶助費 1,733 千円 (前年度比5人減、△37千円) <li style="padding-left: 2em;">中学校17人 扶助費 904 千円 (前年度比7人減、△273千円) | | |
| 事業の効果等 | ・特別支援学級に就学する児童生徒の保護者の負担軽減及び義務教育の円滑な実施が図られた。 | | |
| 今後の課題・改善策 | ・世帯の所得等に応じて援助するものであり、毎年実情を適切に把握し、継続して援助していく必要がある。 | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|---|-------------------------------|-------------|--------|-----|--|---------|---------------|--|---|------|-------------------------------|--------|-----|--|---------|---------------|--|---|------|----------------------------|
| | | 分野 | 1. 学校教育の充実 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 項目 | (2) 教育環境の整備 | 担当部課 | 教育指導部 学校教育課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 点検・評価対象事業名 | ⑩ 要保護及び準要保護就学援助事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象事業において支出した金額 | 37,414 千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の目的 | <p>家庭の経済的理由により就学が困難な児童生徒の保護者に対し、教育に必要な扶助を行う。 東日本大震災の影響により、横手市立小中学校に区域外就学等で就学している児童生徒で、就学が困難な児童生徒の保護者に対し、教育に必要な扶助を行う。(全額国の補助対象)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の実施状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・学用品費 国が定める基準額 ・通学用品費 国が定める基準額 ・校外活動費 国が定める基準を上限として一律に徴収する経費 ・新入学用品費 国が定める基準額 ・体育実技用具費 国が定める基準を上限として学校長から現物を支給 ・修学旅行費 均一に負担すべき経費 ・対象者 <table style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">小学校要保護</td> <td style="text-align: right;">23人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>小学校準要保護</td> <td style="text-align: right;">245人 (内被災者5人)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: right;">268人</td> <td style="text-align: right;">18,955 千円 (前年度比38人減、△2,014千円)</td> </tr> <tr> <td>中学校要保護</td> <td style="text-align: right;">13人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中学校準要保護</td> <td style="text-align: right;">177人 (内被災者0人)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: right;">190人</td> <td style="text-align: right;">18,459 千円 (前年度比2人増、△186千円)</td> </tr> </table> | | | 小学校要保護 | 23人 | | 小学校準要保護 | 245人 (内被災者5人) | | 計 | 268人 | 18,955 千円 (前年度比38人減、△2,014千円) | 中学校要保護 | 13人 | | 中学校準要保護 | 177人 (内被災者0人) | | 計 | 190人 | 18,459 千円 (前年度比2人増、△186千円) |
| 小学校要保護 | 23人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小学校準要保護 | 245人 (内被災者5人) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 268人 | 18,955 千円 (前年度比38人減、△2,014千円) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中学校要保護 | 13人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中学校準要保護 | 177人 (内被災者0人) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 190人 | 18,459 千円 (前年度比2人増、△186千円) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の効果等 | <p>・家庭の経済的理由により就学が困難な児童生徒の保護者負担の軽減及び義務教育の円滑な実施が図られた。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 今後の課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・世帯の収入等に応じて援助するものであり、毎年実情を適切に把握し、継続して援助していく必要がある。 ・被災者用の就学援助は、現時点で平成26年度までの時限補助であることから、今後の補助については国の対応に委ねることとなる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|--|------|-------------|
| | | 分 野 | 1. 学校教育の充実 |
| 項 目 | (2)教育環境の整備 | 担当部課 | 教育指導部 学校教育課 |
| 点検・評価対象事業名 | ⑰小中学校各種大会派遣事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 23,172 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>教育の一環として児童生徒を各種大会等へ参加させるための経費を補助する。 この経費を補助することにより、大会参加に係る保護者等の負担軽減と義務教育の円滑な実施を図る。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>・小中学校の体育連盟等が主催する大会や発表会等への参加に要する児童生徒及び引率教員の交通費、宿泊費及び参加料について補助をした。</p> <p>・小学校 110件 4,176 千円 ・中学校 344件 18,996 千円</p> <p>【 上位大会補助実績 】※東北大会及び全国大会</p> <p> ・小学校 8件 2,976 千円 ・中学校 34件 5,736 千円</p> | | |
| 事業の効果等 | <p>・各大会及びコンクール、発表会等において、横手市内の小中学校が優秀な成績を収め、上位大会（全国大会・東北大会）においても活躍し、その児童生徒の競技意欲の向上という観点で事業実施の効果があった。</p> <p>・児童生徒が大会等への参加を通じて成績だけでは表せない協調性の育成、目的意欲の向上など成長という観点で事業実施の効果があった。</p> | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>・各種大会、発表会への参加のための安全な児童生徒の輸送するとともに、的確な配車計画によりスクールバスの有効活用を図る。</p> | | |

| | | | | 分野 | | 1.学校教育の充実 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|-----|---|---------|------------|------|-----------|-------------|--|-----|--|-----|--|-----|----|----------|---|-------|---|-----|-----|-------|----------|---|-----|---|-----|----|-----|----------|---|-----|---|-----|-----|-------|-----------|---|-----|--|--|-----|-----|----------|---|-----|---|-----|----|-----|-----------|---|-----|---|-----|-----|-------|----------|---|-----|---|----|----|-----|----|----|-------|---|-------|-----|-------|
| 項目 | | (2)教育環境の整備 | | | 担当部課 | | 教育指導部 学校給食課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 点検・評価対象事業名 | | | ⑱学校給食事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象事業において支出した金額 | | | | 649,518 千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の目的 | | <p>各学校給食センターは、児童・生徒の心身の健全な発達に資するため、安全・安心でおいしい給食を提供することを目的とする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の実施状況 | | <p>1日あたりの給食提供状況(H25.5.1現在)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">小学校</th> <th colspan="2">中学校</th> <th>教職員</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>横手給食センター</td> <td>7</td> <td>1,751</td> <td>2</td> <td>825</td> <td>260</td> <td>2,836</td> </tr> <tr> <td>増田給食センター</td> <td>1</td> <td>321</td> <td>1</td> <td>214</td> <td>65</td> <td>600</td> </tr> <tr> <td>平鹿給食センター</td> <td>3</td> <td>619</td> <td>1</td> <td>329</td> <td>108</td> <td>1,056</td> </tr> <tr> <td>雄物川給食センター</td> <td>5</td> <td>684</td> <td></td> <td></td> <td>100</td> <td>784</td> </tr> <tr> <td>大森給食センター</td> <td>1</td> <td>274</td> <td>1</td> <td>506</td> <td>85</td> <td>865</td> </tr> <tr> <td>十文字給食センター</td> <td>4</td> <td>642</td> <td>1</td> <td>356</td> <td>121</td> <td>1,119</td> </tr> <tr> <td>山内給食センター</td> <td>1</td> <td>152</td> <td>1</td> <td>65</td> <td>44</td> <td>261</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>22</td> <td>4,443</td> <td>7</td> <td>2,295</td> <td>783</td> <td>7,521</td> </tr> </tbody> </table> <p>①1食あたりの給食費(小学校260円・中学校290円) ②横手のごつつお給食を共催で実施した。(主催:JA秋田ふるさと青年部) (10/21~25の期間、地元食材を中心とした統一献立の給食を市内小中学校へ提供。) ③バイキング給食、行事食、郷土食を実施した。 ④出荷農家と栄養士が学校を訪問し、地場産野菜等の良さを伝えた。 ⑤給食費の滞納分について、各センターで通知、電話、訪問等で収納に努めた。 ⑥教育委員会事務局の各課職員で収納対策委員会を開催し、未納者宅の訪問を実施した。 ⑦2ヶ月以上滞納した場合は、学校の協力を得て学校集金を実施した。 ⑧児童手当支給時に給食費未納者分は窓口払いにして納付相談を行った。</p> | | | | | | | 小学校 | | 中学校 | | 教職員 | 合計 | 横手給食センター | 7 | 1,751 | 2 | 825 | 260 | 2,836 | 増田給食センター | 1 | 321 | 1 | 214 | 65 | 600 | 平鹿給食センター | 3 | 619 | 1 | 329 | 108 | 1,056 | 雄物川給食センター | 5 | 684 | | | 100 | 784 | 大森給食センター | 1 | 274 | 1 | 506 | 85 | 865 | 十文字給食センター | 4 | 642 | 1 | 356 | 121 | 1,119 | 山内給食センター | 1 | 152 | 1 | 65 | 44 | 261 | 合計 | 22 | 4,443 | 7 | 2,295 | 783 | 7,521 |
| | 小学校 | | 中学校 | | 教職員 | 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 横手給食センター | 7 | 1,751 | 2 | 825 | 260 | 2,836 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 増田給食センター | 1 | 321 | 1 | 214 | 65 | 600 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平鹿給食センター | 3 | 619 | 1 | 329 | 108 | 1,056 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 雄物川給食センター | 5 | 684 | | | 100 | 784 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大森給食センター | 1 | 274 | 1 | 506 | 85 | 865 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 十文字給食センター | 4 | 642 | 1 | 356 | 121 | 1,119 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 山内給食センター | 1 | 152 | 1 | 65 | 44 | 261 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 22 | 4,443 | 7 | 2,295 | 783 | 7,521 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の効果等 | | <p>①児童・生徒の心身の発達のため、栄養バランスのとれた安心・安全な給食を提供できた。 ②地場産物を使用することにより、児童・生徒が食に興味を持ち、食の大切さの理解へとつながったほか、出荷農家との交流により、野菜についての関心が深まった。 ③児童手当支給時に滞納者の納付相談等を実施することにより、滞納繰越分の収納実績が安定している。H25年度7,039,711円。(H24年度8,779,408円 H23年度7,148,011円)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 今後の課題・改善策 | | <p>①安全・安心な給食を提供するため、今後も関係職員の衛生に関する研修を強化する。 ②食物アレルギーに係る学校給食の対応について、学校と連携し安全確保に努める。 ③地場産食材の使用率向上のため、関係機関・団体等と体制づくりを検討する。 ④給食費滞納者について、収納対策を検討するとともに、学校等関係団体との連携を強化する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|--|------|-------------|
| 2 生涯学習の推進 | | 分野 | 2. 生涯学習の推進 |
| 項目 | (1) 生涯学習の基礎づくりへの支援 | 担当部課 | 教育総務部 生涯学習課 |
| 点検・評価対象事業名 | ① 家庭教育支援事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 160 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>家庭での教育力向上を目的に、小学校やPTAなどと連携し、就学検診または入学説明会、保護者会など保護者が多く集まる機会を利用して子育て講座を開催する。また、父親の家庭教育参加促進を図るため親(父)子での体験活動や父親向けの子育て講座などを行う。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>① 学童期子育て講座 就学時健康診断に併せ、市内全小学校22校(13会場)で開催。参加者は699名。</p> <p>② 父親の家庭教育参加促進講座「お父さんといっしょの日曜日」 期 日：3月9日(日) 会 場：釣りキチ三平の里体験学習館、天下森スキー場 内 容：親子でそば打ち、エアボード体験 参加者：40名(父親13人、母親6人、子ども21人)</p> | | |
| 事業の効果等 | <p>・子育て講座は、就労している保護者も多いため、参加しやすいよう保護者が集まる機会に開催日を設定している。H25年度は全て就学時健診に併せて実施した。</p> <p>・父親の家庭教育参加促進講座は、①の子育て講座参加者の多くが母親であることやワーク・ライフ・バランスを推進する観点から、父親向けに開催したものである。、日ごろの子どもと接する時間の短い父親同士の交流を図りながら、地域や家庭での父親の役割を考える機会となった。</p> | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>父親の家庭教育参加促進講座について</p> <p>・親子での体験活動の一環として開催しており、楽しく受講させることができた。学校を通してチラシを配布したが、申し込み多数のため約70家族が参加できなかった。体験内容によっては、人数制限が生じるものがあるが、これについては、体験学習施設やNPO等との連携により、より多くの親子が体験活動に参加できるよう努めていきたい。</p> | | |

| | | | |
|----------------|--|------|-------------|
| | | 分野 | 2. 生涯学習の推進 |
| 項目 | (1)生涯学習の基礎づくりへの支援 | 担当部課 | 教育総務部 生涯学習課 |
| 点検・評価対象事業名 | ②成人式開催事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 382 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>満20歳になり、新たに大人の仲間入りをする新成人をお祝いするとともに、社会に対する義務と責任を担うことを自覚し、積極的に地域づくりへ参画してもらおうきっかけづくりを目的に開催している。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎年8月15日に市民会館にて開催している。 ・新成人で実行委員会を組織し、準備段階から計画立案に携わっており、当日の受付や新成人による誓いの言葉などは実行委員が担っている。 ・3年ぶりに式典中のアトラクションを実施した。横手かまくらFMに協力を依頼し、「新成人に聞いちゃいますハタチのキモチ」と題したインタビュー番組の収録を行った。実行委員が中心となり進行し、後日ラジオで2回放送した。 ・多くの新成人が集まる式典であるが、特に混乱もなくスムーズに開催された。 | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> ・成人式には、対象となる新成人の7～8割が出席し、来賓を合わせると約900名が参加する。 ・式典における挨拶のほか、選挙や税などに関する啓発品を配布し、新成人としての自覚を意識付けできるようにしている。 | | |
| 今後の課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会についてはアトラクションの実施を目標に、主体的に準備・運営を進めることができた。今後もその役割を検討し、実行委員会の自主性を活かした開催にしていきたい。 | | |

| | | | |
|----------------|--|------|-------------|
| | | 分野 | 2. 生涯学習の推進 |
| 項目 | (1)生涯学習の基礎づくりへの支援 | 担当部課 | 教育総務部 生涯学習課 |
| 点検・評価対象事業名 | ③ジュニアリーダー育成事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 285 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>地域行事や子ども会活動へ積極的に参加しながら、リーダーとしての資質の向上を図り、心豊かでたくましい中学生、高校生の育成を目指す。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>横手ジュニアリーダー(中学生7人、高校生14人、計21人)は、『さんかく(汗かく、恥かく、計画かく)』を目標に掲げ、活動している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回のつどい開催(ミーティング等)を開催し、自主的な活動を実施。 ・あそぼうシリーズ(水であそぼう、つくってあそぼう)での小学生への活動指導。 ・厚木市と横手市の小学生交流会における引率と活動支援。厚木ジュニアリーダーとの交流。 ・各種研修会(市・県及び東北研修会)へ参加し、他地区中高生と交流し、リーダーとしての知識や技術を学んでいる。 ・学童保育や放課後子ども教室を訪問し、ゲームやダンスを教えたりし、子ども達とふれ合い交流している。 | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> ・物事に対して積極的になり、リーダーとしての教養が身についた。 ・市内、市外の生徒との交流により、友達が増えた。 ・リーダー的存在として、クラスや部活動で活躍している。 | | |
| 今後の課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・会員の増加(市内全中学校及び市内の高等学校へ会員募集ポスターを校内掲示依頼) ・学校でのクラブ化 | | |

| | | | |
|----------------|--|------|-------------|
| | | 分野 | 2. 生涯学習の推進 |
| 項目 | (1)生涯学習の基礎づくりへの支援 | 担当部課 | 教育総務部 生涯学習課 |
| 点検・評価対象事業名 | ④学校支援ボランティア活動支援事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 88 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>社会の急激な変化により、学校教育活動の多様化・環境変化に対応するべく、保護者、地域の方々から協力してもらい、地域の教育力を学校の教育活動に生かす。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>平成25年度活動状況 登録者数:約670名、活動学校数:13校(29校中)、延べ活動者数:約9,970人</p> <p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の見守り、付き添い ・読み聞かせ ・総合的な学習の講師 ・伝統芸能指導 | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティアの活用により、地域へ学校活動・教育活動を見せることができる。 ・高い技術や専門知識を教育活動に反映できる。 | | |
| 今後の課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・登録ボランティアの支援分野と学校が希望している教育活動とが一致しない。 ・協力していただける地域の方々はたくさんいるが、ボランティア登録まで至っていない。 | | |

| | | | |
|----------------|--|------|-------------|
| | | 分野 | 2. 生涯学習の推進 |
| 項目 | (1) 生涯学習の基礎づくりへの支援 | 担当部課 | 教育総務部 生涯学習課 |
| 点検・評価対象事業名 | ⑤放課後子ども教室推進事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 1,839 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>すべての子どもを対象として、安全・安心な子どもの活動拠点(居場所)を設け、地域の方々の参画を得て、学習活動やスポーツ、文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供する。</p> <p>放課後児童クラブとの違いをはっきりさせるため、長期休業日に限ることと、活動内容に各種体験活動を盛り込むこととしている。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>放課後子ども教室は、夏休み、冬休みの長期休業日の午前半日に実施している。これまでの8教室(横手南子ども教室、旭子ども教室、十文字子ども教室、大雄子ども教室、朝倉子ども教室、浅舞子ども教室、大森子ども教室、雄物川子ども教室)に加え、平成25年度には山内子ども教室を新設し、全9教室で実施した。</p> <p>活動内容は下記のとおりである。</p> <p>①実施日:夏休み、冬休みの長期休業日(夏休みは月、水、金曜日、冬休みは平日毎日)18日間</p> <p>②時 間:8時30分～11時30分</p> <p>③教室名(会場):横手南子ども教室(横手市交流センターY2ふらざ)、朝倉子ども教室(あさくら館)、旭子ども教室(旭ふれあい館)、十文字子ども教室(十文字文化センター)、大雄子ども教室(大雄子どもセンター)、浅舞子ども教室(浅舞公民館)、大森子ども教室(大森コミュニティセンター)、雄物川子ども教室(雄物川コミュニティセンター)、山内子ども教室(ふれあい館)</p> | | |
| 事業の効果等 | <p>全教室、スタッフの企画により工作や異文化体験、ニュースポーツ、調理実習など様々な活動が行われ、好評であった。これらの活動には、婦人会や各種団体、地域の方々や中学生ボランティアによる協力をいただき、多様な活動ができたことは大変有意義であった。また、参加者と保護者に行ったアンケートによると、教室の活動内容に概ね満足いただいております、今後も事業の継続を強く望む声が多かった。</p> <p>教室開始前に、活動内容についてスタッフと打合せを行ったほか、各教室のスタッフ間の連携を図るためにスタッフ連絡会議を行い、安全管理についての意見交換や活動内容についての情報交換を行った。また、当初の計画どおり山内子ども教室を新設できたことは、大きな成果であった。</p> | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>児童数の多い地域は参加希望者が多く定員を増やして対応しているが、活動内容によってはスタッフだけでは目が届きにくくなりがちである。事故やけが等なく本事業を実施できるよう、ボランティアやJr. リーダー、生涯学習奨励員などの協力を得て対応をしていかなければならない。</p> <p>また、教室を運営するにあたり、これまでは参加費を無料で行ってきたが、教室数の増加と補助金の減額が続いており、今後は参加費を有料とするのかを含めて運営方法を見直す時期に入っていると思う。</p> | | |

| | | | |
|----------------|---|------|------------|
| | | 分 野 | 2. 生涯学習の推進 |
| 項 目 | (2) 学習機会の提供と学びの支援 | 担当部課 | 横手生涯学習センター |
| 点検・評価対象事業名 | ①生涯学習センター事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 2,851 千円 | | |
| 事業の目的 | 各種講座・教室・事業を通じて、市民が学習する機会及び学習成果の発表の場を提供する。 | | |
| 事業の実施状況 | <p>【横手生涯学習センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人形劇(横手・山内共催事業) 8/5 小学生以下 139人 ・第43回横手地域市民文化祭 9/20~/22 1,041人 <p>【横手中央公民館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『雪をうたう』第16回市民俳句大会 12/2~3/10 幼児~高齢者 投句者数5,855 ・わいわい楽遊塾 年8回 成人~高齢者 153人 ・ジュニアチャレンジ教室 年8回 小学4年~6年 135人 ・健康づくり教室 4回 成人~高齢者 61人 ・楽しいクラシックⅢ 2回 成人 29人 ・よこてのいいとこ巡り隊 6回 成人 120人 <p>【朝倉公民館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和紙あかり教室 1/15 4人 成人 ・三味線体験教室 3/14 6人 成人 ・あいあい☆広場 6回 59人 未就園児 ・元気アップ教室 7回 78人 高齢者 <p>【栄公民館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にほんごあそび講座 6回 一般男女 65人 ・手作りパン教室 10回 一般男女 21人 ・ハンギングバスケット講座 2回 一般男女 34人 ・自然観察教室 2回 一般男女 40人 ・わんぱく教室 4回 小学生 79人 ・婦人教養講座 7回 一般女性 300人 ・さかえ館まつり 1回(10/13) 栄地区住民 400人 ・世代間交流会 1回(1/9) 栄地区住民 90人 ・グラウンドゴルフ大会 1回(7/6) 栄地区住民 60人 <p>【旭公民館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いきいき健康教室 10回 一般男女 207人 ・旭健康の駅 12回 一般男女 175人 ・旭はじめて教室 15回 一般男女 216人 ・旭ふるさと教室 9回 一般男女 95人 ・旭子育てセミナー 11回 未就学園児とその保護者 306人 ・旭地区夏まつり 8/3 旭地区住民 1200人 ・旭ふれあい館まつり 10/26 旭地区及び近隣住民 1100人 ・ふれあい交流スポーツ大会 旭地区及び近隣住民 70人 | | |

【境町公民館】

- ・ふるさと講座 7回 73人
- ・男の料理教室 4回 39人
- ・そば打ち教室 2回 16人
- ・健康講座 6回 49人
- ・ハンギングバスケット教室 (3館合同) 15人
- ・境町地区みんなの集い 1回 境町小児童・境町地区住民 500人
- ・境町地区夏まつり 1回 境町地区住民 400人
- ・3地区交流ふれあい事業 1回 境町、金沢、黒川地区住民 300人
- ・冬まつり 1回 境町地区住民 200人

【黒川公民館】

- ・ふれあい講座 7回 一般男女 86人
- ・黒川まなび講座 10回 一般男女 97人
- ・しめ飾り作り 1回(12/12) 黒川地区及び近隣住民 48人
- ・黒川小学校・黒川地区合同大運動会 1回(5/12) 黒川小児童・黒川地区住民 280人
- ・オアシス館まつり 1回(10/27) 黒川地区住民 420人
- ・雪まつり 1回(2/9) 黒川地区住民 300人

【金沢公民館】

- ・金沢地区大運動会 開催日：5/12 対象者：金沢地区住民 参加者数：約450人
- ・金沢地区生き物調査と流しそうめんまつり 開催日：8/4 対象者：金沢地区住民 参加者数：約50人
- ・しめ飾りづくりと餅つき大会 開催日：12/26 対象者：金沢地区住民 参加者数：50人

事業の効果等**【横手生涯学習センター】**

・他センターとの連携事業を円滑に実施することで、次年度以降の共同事業の可能性を探ることができた。文化祭では、新たなイベント(絵のコンクール・着物着付体験)を実施し、関係者や来場者から好評を得た。

【横手中央公民館】

・「俳句大会」の事業運営内容の見直しにより、募集期間等の変更から、過去最多数の投句数となり、特に市内小中学校からの取組の発展がみられた。選者への負担軽減などの課題もクリアでき、選者からも質の高い大会となったと好評を得た

・「わいわい楽遊塾」では、「資産・史跡・文化遺産を巡る」「健康」の二つをテーマに体験を主に行い、受講生との交流やさまざまな体験をとおして、普段の生活では体験できない刺激を受けたと喜ばれた。

・「ジュニアチャレンジ教室」では、学校や家庭ではできないスポーツや体験に、初チャレンジする受講生も多く、小学校を卒業しても参加したいという6年生からの声も多かった。

・「健康づくり教室」では、体操と食をテーマに行ったが、健康についての意識の向上や見直し、継続することの大切さを再認識していただいた。

・「楽しいクラシックⅢ」では、高貴なイメージの強いオーケストラによるクラシック音楽を、実は身近で、気軽に楽しめる音楽であることを知ってもらう機会となった。視野が広まったという感想が多かった。

・「よこてのいいとこ巡り隊」では、横手市内にある遺跡・史跡・産業・資産などを新発見・再確認することによって、何もないと言われがちな横手市の豊富な資源を知ること、後世へも伝えていこうという意識の向上がみられた。

【朝倉公民館】

・昨年発足した生涯学習サークルに講師を依頼したところ、受講者から今後も続けていきたいと、そのサークルに入会。生涯学習活動の場提供と会員が増えたことによる今後の更なるサークルの活性化が期待される。

【栄公民館】

- ・学ぶ、知る楽しさを感じていただくことができた。「にほんごあそび講座」では、NHKの「にほんごであそぼ」のテキストを参考に発声することで心身にとって良い講座だった。また、受講生からの要望でさかえ館まつりでのステージ発表も果たし、学習成果を披露することができた。
- ・各講座ともロコミでの受講希望者も多く、回を重ねるごとに人数が増えていることから、地域の中で公民館へ行ってみよう、学んでみたいという気運が高まっている様子が伺えた。
- ・さかえ館まつり等の事業では、地区住民同士の交流も図ることができた。

【旭公民館】

- ・主催講座では、ほぼすべての講座で募集人員に達する参加をいただいた。旭地区だけでなく他地域からも参加するなど、参加者相互におけるコミュニケーション作りに効果があった。また、講座種類と内容により各年齢層から受講者を集めることができた。
- ・地域住民の交流を目的とした実行委員会体制で、夏まつり、ふるさと館まつりを開催し、地域住民が主体の事業となった。各事業ともに参加者も増えて充実した内容で実施できた。

【境町公民館】

- ・「主催講座」は、多くの参加者を得ることができ楽しみながら学習することができた。
- ・「主催事業」は、実行委員の協力や工夫のもと各事業ごとに賑わいを増し、地域全体の意義深い事業を展開することができた。

【黒川公民館】

- ・「主催講座」は、参加者同士で楽しく学び、交流を深めることができた。
- ・「主催事業」は、昨年度より各事業ごとに賑わいを増し、地域全体の連帯感を作り出すことができた。

【金沢公民館】

- ・各事業とも多くの参加者を得て実施することができた。
- ・これらの交流事業を通して地域住民が相互に交流を深め、子どもたちも地域の一員であることを自覚することができた。
- ・住民の繋がりがより強固なものとなり、地域の教育力がより一層醸成されるなど、意義の深い行事となった。

今後の課題・改善策

【横手生涯学習センター】

- ・施設の指定管理者制度化が予定されていることから、横手芸術文化団体連盟等と今後の横手地域市民文化祭について検討する必要がある。

【横手中央公民館】

- ・「俳句大会」では、今後の継続もふまえ、毎回事業内容を見直していき、任意団体などの自主的な事業への移管も同時に検討していくことも必要か。
- ・複数回開催する教室および講座について、体調悪化などの急な理由による欠席はやむを得ないが、毎回参加する率が低く、事前に内容をお知らせしていることから、もっと興味を持って、参加しようという意識が向上する内容を調査検討実行していくべき。
- ・「いいとこ巡り隊」については、バスの乗車人数や、講師が1人ということもあり、参加人数に限りがある。受講希望者が多く、再度開催してほしいとの要望も多く寄せられていることから、講師と交渉し、複数開催など、検討していく。

【朝倉公民館】

- ・地域課題やアンケートによる要望などを踏まえ、市民目線によるタイムリーな講座を実施していく。

【栄公民館】

- ・初めて講座に参加した方が、もっと学んでみたいと思うような内容や公民館側でもぜひ学んで欲しいと思うような講座を開設していきたい。
- ・平成23年～平成25年まで冬期間に開催してきた「お気楽ものづくりサロン」を自主サークル化したが、自分たちの力で運営していけるようなサポート体制が今後必要だと感じる。

【旭公民館】

- ・主催講座の内容に新たなものを加えるなど工夫を凝らして、受講者にとって常に魅力のあるようにしていきたい。
- ・旭地区の地域性を生かしながら、参加者が自ら学ぶ機会を作り、自主講座への移行を推進していく。
- ・今後も地域で継続してまつりや行事が実施できるように、世代間のつながり、各団体の協力体制を維持しつつ、自主的な計画や活動を支援していきたい。

【境町公民館】

- ・主催講座について、参加者からの要望を踏まえ内容を精査し取り組んでいきたい。
- ・自主サークル化へむけての働きかけなど講座参加者が自主的に活動できるように支援をしたい。

【黒川公民館】

- ・主催講座は、地域の課題を把握した上で必要な分野を取り上げていきたい。また、参加者の生涯学習や交流の場となるように、内容を検討し充実させていきたい。
- ・講座終了後の学習成果を生かす場を提供し、サークル化への働きかけなど地域住民の自主的な活動を支援する。

【金沢公民館】

- ・平成25年度から金沢中学校が横手北中学校へ統合となり、平成28年度から金沢小学校も統合となるが、今後も地域活性のために、学校を通して生徒・児童へ地区住民との交流事業への参加を呼びかけ、それぞれが参加しやすいような内容を検討し実施していきたい。

| | | | |
|----------------|---|------|------------|
| | | 分 野 | 2. 生涯学習の推進 |
| 項 目 | (2) 学習機会の提供と学びの支援 | 担当部課 | 増田生涯学習センター |
| 点検・評価対象事業名 | ①生涯学習センター事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 322 千円 | | |
| 事業の目的 | 各種講座・教室・事業を通じて、市民が学習する機会を提供する。 | | |
| 事業の実施状況 | <p>○ 社会教育</p> <p>増田っ子塾 対象:小学生の親子 (開催回数 5回、参加者 97人)</p> <p>エンジョイマンガロード(夏・冬) 対象:小学校4年～6年 (増田っ子塾と合同)</p> <p>増田地域文化祭 対象:一般市民 (開催回数 1回、発表者 250人、来場者 800人)</p> <p>わくわくウォーキング 対象:一般市民 (開催回数 2回、参加者 57人)</p> <p>書き初め大会 対象:一般市民 (開催回数 1回、参加者 30人)</p> <p>囲碁将棋大会 対象:一般市民 (開催回数 1回、参加者 10人)</p> <p>パークゴルフ 対象:一般市民 (開催回数 1回、参加者 24人)</p> <p>○ 社会体育</p> <p>スポーツの集い 対象:一般市民 (開催回数 1回、参加者 251人)</p> <p>ジュニアスキーレッスン 対象:小学校1年～3年 (開催回数 1回、受講者 106人)</p> | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童を対象とした増田っ子塾は、学校の学習とは違った体験、交流等を図ることができた。 ・エンジョイマンガロード(夏)は、東日本大震災の影響により3年ぶりの開催となった。海水浴やキャンプ等さまざまな学習を通じ、宮城県登米市の小学生との交流を深めることができた。 ・エンジョイマンガロード(冬)は、宮城県登米市の小学生を招いて雪国体験を実施し、雪合戦、スキー、そり遊びなどを通じ、交流を図ることができた。 ・増田地域文化祭では、11月29日～12月1日の3日間にわたり、展示部門・ステージ部門ごとに発表した。この文化祭は、各団体の学習成果発表の場となっているため、日ごろの練習等も熱心で、事業の存在意義が充分活かされた。 ・書き初め大会は、部活動等により中学生の参加者が少なかったが、力強く筆を走らせる光景を目にすることができ、非常に有意義なものとなった。 ・囲碁将棋大会は、年々参加者の固定化が進んできている状況であるが、大会そのものは和気あいあいと囲碁将棋を楽しむ内容にできた。 ・スポーツの集いは、小中学生から高齢者まで多くの参加者のもと、ニュースポーツを中心に楽しみながら、年代の垣根を越える交流ができる価値ある事業となった。 ・ジュニアスキーレッスンは、小学1～3年生までの児童を対象として行うスキー教室で、地元のスキーインストラクターより懇切丁寧に指導を受け、ほとんどの児童が滑れるようになり、大変喜んでいただいた。 | | |
| 今後の課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・どの事業にも共通した課題は、少子高齢化に伴う参加者の減少と捉えている。 ・参加者の減少という現状をを踏まえながら、今後事業を進めていくためには、新しいリーダーの発掘と時代に合わせた新規の事業を取り入れ、少しずつ変化を加えながら進めて行く必要がある。 ・それと同時に、当地域の特徴を活かしながら、地域センター等と連携を図り、さらに魅力ある事業を今後展開して行きたい。 | | |

| | | | |
|----------------|--|------|------------|
| | | 分 野 | 2. 生涯学習の推進 |
| 項 目 | (2) 学習機会の提供と学びの支援 | 担当部課 | 平鹿生涯学習センター |
| 点検・評価対象事業名 | ①生涯学習センター事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 763 千円 | | |
| 事業の目的 | <ul style="list-style-type: none"> ・各講座、教室を開講して、市民が学習する機会を提供する。 ・スポーツ大会を開催し、市民のスポーツへの関心の喚起と健康増進を図る。 ・施設の管理運営を行い、市民に生涯学習の場を提供する。 | | |
| 事業の実施状況 | <p>○社会教育</p> <p>①成人教育(ふるさと食材を使った料理教室) ⇒ 教室5回 参加者数55人 (3公民館共同事業)</p> <p>②高齢者教育(あやめ大学) ⇒ 60歳以上を対象 学習会6回 学生数83人</p> <p>③少年教育(少年公民館「わくわく教室」、子ども会による地域環境整備事業「花いっぱい運動」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏・冬休みわくわく教室 ⇒ 夏・冬休みの児童対象 9教室 参加者数延べ352人 (3公民館共同事業) ・花いっぱい運動 ⇒ 子ども会を対象 花苗3種類を各20本ずつ60本を無料配布 17団体 <p>④乳幼児教育(りんごちゃん教室) ⇒ 未就学児と保護者を対象 教室4回 参加親子31組 (平鹿町子育て支援センターと共催)</p> <p>⑤学習成果の発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習のつどい ⇒ 芸術文化祭、浅舞地区生活工夫展、樽見内地区生活工夫展(各団体や地域と共催) <p>⑥吉田地区 ⇒ 料理教室、移動研修、健康講座、生活文化展&文化講演会ほか 10事業 参加者605人</p> <p>⑦醍醐地区 ⇒ 料理教室、移動研修、創作活動、健康講座、公民館まつりほか 14事業 参加者551人</p> <p>○社会体育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グランドゴルフ大会 ⇒ 平鹿地域グラウンドゴルフ大会(地区予選会3回、決勝大会1回) 参加者延べ216人 浅舞地区大会 参加者53人、吉田地区大会 参加者47人、醍醐地区大会 参加者36人 ・ゲートボール大会 ⇒ 12チーム 75人 ・学童相撲大会 ⇒ 33人 ・ビーチバレーボール大会 ⇒ 8チーム 80人 ・スマイルボウリング大会 ⇒ 参加者62人 ・ニュースポーツユニカール講習会 ⇒ 参加者65人 | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> ・少年教育「少年公民館「わくわく教室」」 ⇒平成23年度に作成した「ふるさと探訪マップ」を活用し、夏休み少年公民館「わくわく教室」の移動教室で「水の町平鹿をめぐる」というふるさと学習会を行った。参加した小学生らは、見学先での水田用水や湧き水について、体験や学習することができ、大変感動していた。 ・生涯学習成果の発表(吉田・醍醐) | | |

⇒地区会議との共催での開催により、住民との交流をはかることができた。

・住民と協働する生涯学習活動の推進

⇒平成24年度に開催した2講座（キルトの会、水墨画講座）について、今年度よりサークルとして発足し、活動することとなった。「醍醐を語る会」と共催し、住民と協働する生涯学習活動、公民館の自主運営に向け、はずみがついた。

今後の課題・改善策

・高齢者教育「あやめ大学」

⇒現在の学生数は、83名となっているが、学生数の増加を目指していくとともに、参加したくなるような学習内容を検討するとともに、内容によっては、地域の方々も参加できるよう周知をはかっていきたい。

・吉田・醍醐公民館の交流センター化に向けた取り組みの推進

⇒各地区公民館運営協議会と詳細の打合せを行い、確実に交流センター化を進め、指定管理に移行できるよう準備も進めていく。

| | | | |
|----------------|--|------|-------------|
| | | 分野 | 2.生涯学習の推進 |
| 項目 | (2)学習機会の提供と学びの支援 | 担当部課 | 雄物川生涯学習センター |
| 点検・評価対象事業名 | ①生涯学習センター事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 1,258 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>・各種講座及び教室を開設し、地域の方々の学習機会並びに学習成果の発表の場を提供することで活動意欲の向上を図る。</p> <p>・生涯スポーツの充実、推進を図る。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>○社会教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雄川大学 対象:高齢者(スポレク、書道、郷土史、園芸の4学科)講座回数38回受講者86人延べ616人) ・書道通信講座 対象:成人 実施回数9回、受講者34人 ・新春書初め大会 1月7日開催 小・中学生26人、成人9人 ・アクティブキッズクラブ 対象:小学生 実施回数4回延べ110人 ・公民館賞贈呈式 沼館、里見、館合公民館(地域貢献者を各1名表彰) ・住みよい郷土づくりの集い 各公民館自主活動(健康教室、講演会研修会、芸能発表会の開催) ・沼館公民館 沼館小唄伝承教室 対象:成人 2回実施 ・里見公民館 料理教室ほか 対象:成人 2回実施 ・福地公民館 女声合唱教室 対象:成人 月4回実施 ・館合公民館 生け花教室 対象:成人 5回実施 ・大沢公民館 盆踊り講習会ほか 対象:成人 6回実施 ・公民館報「ふくち」発行 年2回(@600部) ・年末年始伝承会 <ul style="list-style-type: none"> 12月12日開催 北小学校5年生52名 しめ飾り作成、若水汲み、灸たて、餅つき等の風習を体験学習 ・芸術文化祭 <ul style="list-style-type: none"> 11月8日～10日発表部門10団体121名、展示部門12団体・一般・小学校児童3校の492人 704点を展示 来場者1,300人 ・銀河系宇宙ほらふき決勝大会 1月18日開催 出場者11組 観衆250人 <p>○社会体育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジデー2013 5月29日開催 参加率75.1% ・ちびっ子バレー教室 対象:小学生 実施回数10回、受講者28名 ・ニュースポーツ教室 対象:成人 実施回数107回 <p>○スポーツ大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雄物川駅伝競走大会 6月30日開催 参加20チーム ・グラウンドゴルフ大会 7月28日開催 参加者59人 ・ニュースポーツ大会 2月13日開催 参加19チーム 76人 (ユニカール、スマイルボウリング) ・家庭バレーボール大会 12月15日開催 参加6チーム 54人 | | |

事業の効果等

- ・子供や高齢者を対象に、生涯学習やスポーツを通じて、健康づくりと他の地域の市民との交流を促進することができた。
- ・公民館賞贈呈式並びに住みよい郷土づくりは、地域に根ざした公民館事業として定着しており、各地区公民館がそれぞれの運営委員の協力により、地域の個性を生かした活動が実施できた。

今後の課題・改善策

- ・高齢者学習の「雄川大学」の受講者はほぼ横ばいに推移しているが、各学科役員と協議しながら魅力ある事業を展開し、新規受講者の確保に努めていきたい。
- ・小学生対象の教室については、スポ少活動の影響もあって参加者が少なくなっているため、今後スポ少の指導者や学校側との連携を図りながら、年齢層を広げるなど内容を検討していきたい。
- ・参加実績の少ない世代(20代～50代)が受講意欲をもつような講座を提案していきたい。

| | | 分野 | 2. 生涯学習の推進 |
|----------------|---|------|------------|
| 項目 | (2) 学習機会の提供と学びの支援 | 担当部課 | 大森生涯学習センター |
| 点検・評価対象事業名 | ①生涯学習センター事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 508 千円 | | |
| 事業の目的 | 地域住民が豊かで健康的な生活を送るために、地域に定着した教養講座やスポーツ事業を展開していく。 | | |
| 事業の実施状況 | <p>○社会教育</p> <p>生き生き学園 対象:成人(17講座、開催回数509回、受講者延べ4,455人、共催)</p> <p>夏休み手づくり工房 対象:小学生及び保護者(4公民館、受講者17組の親子)</p> <p>花いっぱい運動 対象:道路花壇地区(19地区、4,000本配布)</p> <p>文化祭 対象:地域住民(展示部門222点、芸能発表部門8団体40人、入場者700人)</p> <p>ミステリー探検隊 対象:小学生(県防災センター他、68人参加(大森29名)、西部3地域合同)</p> <p>男の料理講座 対象:成人男性(前田公民館そば打ち、6人)</p> <p>○社会体育</p> <p>緑の中を歩こう会 対象:地域住民(大森リゾート村、38人参加(大森15人)西部3地域合同)</p> <p>ふれあい登山 対象:地域住民(秋田駒ヶ岳登山、13人参加)</p> <p>初心者ゴルフ教室 対象:成人(開催回数8回、受講者5人、共催)</p> <p>水泳教室 対象:学童コース(開催回数11回、受講者21人、共催) 成人女性・健康増進コース(開催回数6回、受講者8人、共催)</p> <p>夜間スキー教室 対象:小学生(開催回数3回、受講者13人、共催)</p> <p>○スポーツ大会等(各種団体と共催)</p> <p>チャレンジデー (98,697人参加、参加率71%金メダル獲得(大森6,877人79.6%))</p> <p>駅伝大会 (19チーム参加、10kmを4人で)</p> <p>元気なスポレク祭 (700人参加)</p> <p>ニュースポーツチャンピオンCUP (17団体参加)</p> <p>歩くスキーの集い (300人参加)</p> | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジデーは今年度より横手全体で開催。認知度も高く、各団体・企業等の協力もあり参加率も高率を維持することができた。 ・各種スポーツ事業は「大森スポーツクラブさくら」と共催することで、少ない職員でも開催することができた。 ・大森地域の施設(ゴルフ場・プール・スキー場等)を有効利活用し、各種教室を開催することができた。 ・西部3地域合同事業については、地域間交流として有効であり、今後も継続して実施してゆく。 | | |
| 今後の課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・エリアで実施している生き生き学園の受講者が固定化・高齢化してきていることから、受講者やエリア利用者にアンケート等を実施し新規講座等を検討しているが、講師等の確保が難しい。 ・小学生の対象事業は、人数が減ってきていることと、スポ少などの活動があるため参集が難しい。 ・大森スポーツクラブさくらが設立され、自立に向け支援を継続して実施しなければならない。 ・地域づくり協議会の提案事業も生涯学習関連事業が多くあり、これからも連携協議しなければならない。 | | |

| | | 分 野 | 2. 生涯学習の推進 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|-----------------------------|-------------|----------|--|---------|--|-----------|------|--------|-----|---------------|-------|--------------|------|--------------|------|--------------------------|------|---------|------|-----------------------------|------|-----------|------|-----------|------|---------------------------|------|-----|-------|-----|-------|--|--|----------|--|--|--|-------------------------------|----|--|------|-----------------------------|----|--|------|--|-----|--|------|--------|--|--|--|---------------|--|--|-------|----------------------------------|--|--|------|--------------------------------|--|--|-------|--|-----|--|-------|---------------------------|--|--|--|-----------|--|--|-------|--|-----|--|-------|---|--------------------|--|---------|----------|--|--|----------|--|--|--|--|----------|--|--|--|-----------------------------|----|--|-------|---------------------------|----|--|------|--------|--|--|--|---------------------------|--|--|------|--------------------|--|--|-------|
| 項 目 | (2) 学習機会の提供と学びの支援 | 担当部課 | 十文字生涯学習センター | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 点検・評価対象事業名 | ①生涯学習センター事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象事業において支出した金額 | 2,123 千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の目的 | 各世代の方々が気軽に運動できる機会の提供や生涯学習のきっかけ、自らの文化活動の発表の場等を提供することで、体力の向上や地域住民の絆を確認し、健康に暮らせる地域を作ることを目的とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の実施状況 | <p>■ 社会教育 ◎生涯学習センター事業</p> <table border="0"> <tr> <td>※小学生向け事業</td> <td></td> <td>※大人向け事業</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○HIPHOP教室</td> <td>82 名</td> <td>○美魔女講座</td> <td>8 名</td> </tr> <tr> <td>○バレーボール教室(7回)</td> <td>140 名</td> <td>○発酵文化と農聖を訪ねて</td> <td>38 名</td> </tr> <tr> <td>○わくわく科学展に行こう</td> <td>23 名</td> <td>○防災講座 (市民向け:岩手県陸前高田市)</td> <td>25 名</td> </tr> <tr> <td>○スケート教室</td> <td>41 名</td> <td>○防災講座 (生涯学習奨励員向け:岩手県釜石市)</td> <td>21 名</td> </tr> <tr> <td>○ピザ・パーティー</td> <td>13 名</td> <td>○健康ウォーキング</td> <td>67 名</td> </tr> <tr> <td>○B&Gお楽しみ会 (水中レクリエーション)</td> <td>40 名</td> <td>小計②</td> <td>159 名</td> </tr> <tr> <td>小計①</td> <td>339 名</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>◎高齢者向け事業</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ふれあい学級(コーラス/月2回[第1・第3木曜]午前中)</td> <td>登録</td> <td></td> <td>26 名</td> </tr> <tr> <td>○ふれあい学級(詩吟/月2回[第1・第3火曜]午前中)</td> <td>登録</td> <td></td> <td>11 名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>小計③</td> <td></td> <td>37 名</td> </tr> <tr> <td>◎公民館事業</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○孫の教育を語る会(三重)</td> <td></td> <td></td> <td>330 名</td> </tr> <tr> <td>○婦人講座(十文字・三重 料理教室/健康の駅/押し花教室/観劇)</td> <td></td> <td></td> <td>79 名</td> </tr> <tr> <td>○婦人講座(植田・睦合 パッチワーク他/健康の駅/文化研修)</td> <td></td> <td></td> <td>193 名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>小計④</td> <td></td> <td>602 名</td> </tr> <tr> <td>◎共催事業(十文字芸術文化協会と生涯学習センター)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○十文字芸術文化祭</td> <td></td> <td></td> <td>650 名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>小計⑤</td> <td></td> <td>650 名</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>社会教育計(小計①+②+③+④+⑤)</td> <td></td> <td>1,787 名</td> </tr> </table> <p>■ 社会体育 ◎生涯学習センター事業</p> <table border="0"> <tr> <td>○チャレンジデー</td> <td></td> <td></td> <td>14,127 名</td> </tr> <tr> <td colspan="4">※十文字地区は、交流人口による参加者もあり106%の参加率を記録し、横手市の勝利に貢献した。</td> </tr> <tr> <td>◎高齢者向け事業</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ふれあい学級(グラウンドゴルフ/週1回[月]午前中)</td> <td>登録</td> <td></td> <td>136 名</td> </tr> <tr> <td>○ふれあい学級(卓球/週3回[火・木・土]午前中)</td> <td>登録</td> <td></td> <td>39 名</td> </tr> <tr> <td>◎公民館事業</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ふれあい運動会(十文字・三重共催 対象:高齢者)</td> <td></td> <td></td> <td>55 名</td> </tr> <tr> <td>○野球大会(十文字と三重独自に開催)</td> <td></td> <td></td> <td>239 名</td> </tr> </table> | | | ※小学生向け事業 | | ※大人向け事業 | | ○HIPHOP教室 | 82 名 | ○美魔女講座 | 8 名 | ○バレーボール教室(7回) | 140 名 | ○発酵文化と農聖を訪ねて | 38 名 | ○わくわく科学展に行こう | 23 名 | ○防災講座 (市民向け:岩手県陸前高田市) | 25 名 | ○スケート教室 | 41 名 | ○防災講座 (生涯学習奨励員向け:岩手県釜石市) | 21 名 | ○ピザ・パーティー | 13 名 | ○健康ウォーキング | 67 名 | ○B&Gお楽しみ会 (水中レクリエーション) | 40 名 | 小計② | 159 名 | 小計① | 339 名 | | | ◎高齢者向け事業 | | | | ○ふれあい学級(コーラス/月2回[第1・第3木曜]午前中) | 登録 | | 26 名 | ○ふれあい学級(詩吟/月2回[第1・第3火曜]午前中) | 登録 | | 11 名 | | 小計③ | | 37 名 | ◎公民館事業 | | | | ○孫の教育を語る会(三重) | | | 330 名 | ○婦人講座(十文字・三重 料理教室/健康の駅/押し花教室/観劇) | | | 79 名 | ○婦人講座(植田・睦合 パッチワーク他/健康の駅/文化研修) | | | 193 名 | | 小計④ | | 602 名 | ◎共催事業(十文字芸術文化協会と生涯学習センター) | | | | ○十文字芸術文化祭 | | | 650 名 | | 小計⑤ | | 650 名 | A | 社会教育計(小計①+②+③+④+⑤) | | 1,787 名 | ○チャレンジデー | | | 14,127 名 | ※十文字地区は、交流人口による参加者もあり106%の参加率を記録し、横手市の勝利に貢献した。 | | | | ◎高齢者向け事業 | | | | ○ふれあい学級(グラウンドゴルフ/週1回[月]午前中) | 登録 | | 136 名 | ○ふれあい学級(卓球/週3回[火・木・土]午前中) | 登録 | | 39 名 | ◎公民館事業 | | | | ○ふれあい運動会(十文字・三重共催 対象:高齢者) | | | 55 名 | ○野球大会(十文字と三重独自に開催) | | | 239 名 |
| ※小学生向け事業 | | ※大人向け事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○HIPHOP教室 | 82 名 | ○美魔女講座 | 8 名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○バレーボール教室(7回) | 140 名 | ○発酵文化と農聖を訪ねて | 38 名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○わくわく科学展に行こう | 23 名 | ○防災講座 (市民向け:岩手県陸前高田市) | 25 名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○スケート教室 | 41 名 | ○防災講座 (生涯学習奨励員向け:岩手県釜石市) | 21 名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○ピザ・パーティー | 13 名 | ○健康ウォーキング | 67 名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○B&Gお楽しみ会 (水中レクリエーション) | 40 名 | 小計② | 159 名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小計① | 339 名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ◎高齢者向け事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○ふれあい学級(コーラス/月2回[第1・第3木曜]午前中) | 登録 | | 26 名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○ふれあい学級(詩吟/月2回[第1・第3火曜]午前中) | 登録 | | 11 名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 小計③ | | 37 名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ◎公民館事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○孫の教育を語る会(三重) | | | 330 名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○婦人講座(十文字・三重 料理教室/健康の駅/押し花教室/観劇) | | | 79 名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○婦人講座(植田・睦合 パッチワーク他/健康の駅/文化研修) | | | 193 名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 小計④ | | 602 名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ◎共催事業(十文字芸術文化協会と生涯学習センター) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○十文字芸術文化祭 | | | 650 名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 小計⑤ | | 650 名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A | 社会教育計(小計①+②+③+④+⑤) | | 1,787 名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○チャレンジデー | | | 14,127 名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ※十文字地区は、交流人口による参加者もあり106%の参加率を記録し、横手市の勝利に貢献した。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ◎高齢者向け事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○ふれあい学級(グラウンドゴルフ/週1回[月]午前中) | 登録 | | 136 名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○ふれあい学級(卓球/週3回[火・木・土]午前中) | 登録 | | 39 名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ◎公民館事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○ふれあい運動会(十文字・三重共催 対象:高齢者) | | | 55 名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○野球大会(十文字と三重独自に開催) | | | 239 名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|---|-------|
| ○各地区民登山（十文字・三重は中止 対象:小学生以上） | 16 名 |
| ○各地区民運動会（三重・植田・睦合は実施。十文字は中止。） | 935 名 |
| ○西地区民マラソンバスケットボール大会（植田・睦合） | 215 名 |
| ○各地区グラウンドゴルフ大会 | 150 名 |
| ○親子スキー教室（三重 対象:第二小学校児童・保護者） | 150 名 |
| ○夫婦健康バレーボール大会（十文字・三重・睦合は夫婦バレー・植田は健康バレー） | 232 名 |

| | | |
|---|-------|----------|
| B | 社会体育計 | 16,294 名 |
|---|-------|----------|

■スポーツ大会

| | |
|--------------------------------|-------|
| ○第24回選抜招待中学校ソフトテニス十文字大会 | 130 名 |
| ○第31回B&G杯争奪中学校選抜招待バスケットボール大会 | 193 名 |
| ○第55回十文字マラソン大会兼第28回さくらんぼマラソン大会 | 325 名 |

| | | |
|---|---------|-------|
| C | スポーツ大会計 | 648 名 |
|---|---------|-------|

■その他

| | |
|--------------------------------|-------|
| ◎公民館事業 | |
| ○睦合盆踊り大会 | 中止 |
| ○ごてんまりコンクール（※由利本荘市で開催の全国コンクール） | 11 名 |
| ○睦合農家高齢者創作館まつり（演芸・陶芸作品等の展示） | 250 名 |
| ○植田童っ子の雪祭り | 175 名 |

| | | |
|---|------|-------|
| D | その他計 | 436 名 |
|---|------|-------|

| | |
|-------------|----------|
| 総計(A+B+C+D) | 19,165 名 |
|-------------|----------|

事業の効果等

- ・チャレンジデーについては、十文字地域の立地の特性による交流人口(買物客)もカウントしたことにより参加率が、106%となり横手市の勝利に貢献した。チャレンジデーの認知度も年々上がってきている。
- ・各公民館で実施している運動会等の事業は、地域の幅広い世代が一堂に会して交流できる事業であり、特に高齢者の方々から好評を得ている。地域の繋がりを確認できる事業である。
- ・運動することの重要性を認識してもらうことや日頃文化センターを利用し芸事を練習している方々の発表の場を提供することで、参加者や出演者の励みになっている。

今後の課題・改善策

- ・社会情勢の変化により、土日もお勤めする方々の増加等で事業展開に支障をきたす場合も出ており開催方法や種目の見直し等が必要である。
- ・各組織の構成員が高齢化し、後継者不足も顕著で組織の立て直し等が喫緊の課題となっている。
- ・チャレンジデーについては、今後、十文字地域在住の方々の参加を増やす工夫が必要である。
- ・世代(若年層と高齢者層)の価値観の違いにより、興味のある事業が異なり一緒に事業展開することが難しい。今後双方が参加できるような事業展開が必要。
- ・文化センターをはじめとする主要な施設の老朽化が顕著で、施設の維持管理や改修が課題である。

| | | | |
|----------------|---|------|------------|
| | | 分 野 | 2. 生涯学習の推進 |
| 項 目 | (2) 学習機会の提供と学びの支援 | 担当部課 | 山内生涯学習センター |
| 点検・評価対象事業名 | ①生涯学習センター事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 691 千円 | | |
| 事業の目的 | <ul style="list-style-type: none"> ・各種講座や教室を開催して市民が学習する機会を提供する。 ・スポーツ大会を開催して市民のスポーツへの親しみと健康増進を図る。 | | |
| 事業の実施状況 | <p>○社会教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すくすくサロン 対象:乳幼児とその家族 開催回数 4回 参加者 70人 ・のびっこ公民館 対象:小学生 開催回数 5回 参加者 109人 ・キッズクラブ(2クラブ) 対象:小学生 開催回数 18回 参加者 258人 ・生きがい広場 対象:高齢者 開催回数 2回 参加者 44人 ・健康出前塾 対象:成人 開催回数 12回 受講者 227人 ・悠々講座(5講座) 対象:成人 開催回数 16回 受講者 202人 (山菜・郷土料理・手芸・ストレッチ体操) ・山内文化祭 対象:全部 開催日 10/26、27 来場者 555人 <p>○社会体育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登山 対象:成人 開催日 10/4 参加者 18人 ・スキー教室 対象:小学1年生 開催日 1/11 参加者 20人 <p>○スポーツ大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドゴルフ大会 1回(100人)、夫婦バレーボール大会 1回(6チーム71人) ・ユニカール大会 ・スマイルボーリング大会 ・スキー大会 | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> ・小学生対象事業(キッズクラブ)では、地域の施設を利用し自然や特産品にふれる機会を提供できた。児童の保護者へ行ったアンケートには、季節感があり、普段できない企画が良かったと好評を得た。 ・郷土料理(いものこ汁の作り方教室)は予想に反して、初心者よりも作り慣れた主婦層の参加が多く、向上心を感じられた。 ・新聞紙を使ったエコバック作り、廃油を利用した石鹸作り教室では、環境に配慮し、身近にできるエコについて考える機会の提供ができた。 | | |
| 今後の課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・就業者や男性の参加者が少ないので、参加しやすい事業・時間を検討。 ・旧山内地域局解体工事に伴い、公民館を会場とする事業は、安全に開催できるよう注意喚起する。 | | |

| | | | |
|----------------|---|------|------------|
| | | 分 野 | 2. 生涯学習の推進 |
| 項 目 | (2) 学習機会の提供と学びの支援 | 担当部課 | 大雄生涯学習センター |
| 点検・評価対象事業名 | ①生涯学習センター事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 1,259 千円 | | |
| 事業の目的 | 各種講座や体験活動、スポーツ大会等を開催し、市民が学習や体験活動・健康増進を図るための機会と、学習成果の発表の場を提供する。 | | |
| 事業の実施状況 | <p>○社会教育</p> <p>小学生対象:チビっ子探検隊「わくわく教室5回(98人)、クッキング教室1回(21人)、紙粘土教室1回(15人)、しかけカード作り教室1回(16人)、ミステリーバスツアー1回(21人)、ザリガニ釣り1回(26人)、スポーツ教室1回(17人)、秋の移動子ども教室1回(40人) 大雄地域再発見(実験農場野菜の収穫・誘致企業見学・史跡めぐり)1回(42人)」</p> <p>園児～小学生対象:大雄子どもフェスティバル1/25開催(280人)</p> <p>成人対象:出前講座10回(124人)、芸術鑑賞会1回(19人)、歴史文化学習会1回(17人) 芸術文化祭(共催)ステージ発表11/4(200人) 作品展示11/2～11/6(358人) ガーデニング教室1回(21人)、防災講座1回(20人) 釜石市・遠野市、史跡探訪会1回(13人)</p> <p>小学生～一般対象:大雄書き初め大会1/7日開催(40人)</p> <p>○社会体育</p> <p>小学生対象:スキー教室2回(47人)</p> <p>一般対象:ソフトバレーボール教室1回(40人)、スマイルボウリング教室1回(40人)</p> <p>○スポーツ大会</p> <p>おはよう野球大会5月～8月迄(11チーム)、ソフトバレーボール大会1回(10チーム)、ゲートボール大会1回(6チーム)、グラウンドゴルフ大会1回(35人)、ゴルフ大会1回(39人) スポーツレクリエーション大会10/12開催(550人)、ミニテニス大会1回(30人)、スマイルボウリング大会1回(50人)</p> <p>○その他(西部地区共催事業)</p> <p>ウォーキング1回(38人)、グラウンドゴルフ大会1回(85人)、スマイルボウリング大会1回(150人)</p> | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> 子どもを対象とした事業では、子どもたちが安全に安心して活動に参加できるよう配慮しながら、体験活動の機会を子どもたちに提供することができた。 芸術文化協会と共催で芸術文化祭を開催し、各種団体や個人の学習成果を発表する場の提供ができた。 スポーツ教室・大会事業は、気軽に楽しめる「ニュースポーツ」の普及を図りながら、地区住民の交流と健康増進を図ることができた。 西部地区のスポーツ交流大会を開催し、地域の垣根を越えた新しい交流の場の提供や西部地区の生涯学習拠点の基盤づくりができた。 | | |
| 今後の課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> 住民の学習意欲を喚起し、自主的な学習を進めていくために、学習活動の中心となる指導者の発掘に努める必要がある。 小学生を対象とした事業については、内容を変えて開催したが、少子化の影響により参加者が減少している。これからは、近隣地区と連携しながら事業を開催していく必要がある。 事業の参加者に若い世代の方が少ないので、どのように若者を参画させるかが課題である。 | | |

| | | 分野 | 2. 生涯学習の推進 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|---|-------------------|-------------|--|--|-----|----------------|-----|------------------|------------|-----|--------------|-----------------|------|-----------------|--------------|------|----------------|----------------|------|-----------------|------|-----|----------------|----|------|-------------------|-------|------|-----------------|-------|-----|----------------|-----|-----|---------------|
| 項目 | (3) 学習の場と推進体制の整備 | 担当部課 | 教育総務部 生涯学習課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 点検・評価対象事業名 | ①社会教育施設運営事業(農山村体験学習交流施設) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象事業において支出した金額 | 7,482 千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の目的 | <p>青少年の体験活動の機会を充実し青少年の健全育成を推進するため、農山村体験や野外活動体験を提供する施設「農山村体験学習交流施設釣りキチ三平の里体験学習館」を設置している。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の実施状況 | <p>①目的別の利用状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>前年比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○学校授業の一貫としての利用</td> <td>5団体</td> <td>250人 (増減なし、90人増)</td> </tr> <tr> <td>○研修会としての利用</td> <td>4団体</td> <td>41人 (1増、4人増)</td> </tr> <tr> <td>○親子会又は子供会としての利用</td> <td>11団体</td> <td>227人 (1増、153人減)</td> </tr> <tr> <td>○他施設の事業として利用</td> <td>12団体</td> <td>352人 (4増、68人増)</td> </tr> <tr> <td>○スポ少及び部活動として利用</td> <td>10団体</td> <td>150人 (1増、126人減)</td> </tr> <tr> <td>○その他</td> <td>1団体</td> <td>22人 (5減、147人減)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>43団体</td> <td>1,042人 (2増、264人減)</td> </tr> </tbody> </table> <p>②地域別利用状況</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>○横手市内</td> <td>31団体</td> <td>759人 (1増、255人減)</td> </tr> <tr> <td>○横手市外</td> <td>9団体</td> <td>239人 (3増、36人増)</td> </tr> <tr> <td>○県外</td> <td>3団体</td> <td>44人 (2減、45人減)</td> </tr> </tbody> </table> | | | | | 前年比 | ○学校授業の一貫としての利用 | 5団体 | 250人 (増減なし、90人増) | ○研修会としての利用 | 4団体 | 41人 (1増、4人増) | ○親子会又は子供会としての利用 | 11団体 | 227人 (1増、153人減) | ○他施設の事業として利用 | 12団体 | 352人 (4増、68人増) | ○スポ少及び部活動として利用 | 10団体 | 150人 (1増、126人減) | ○その他 | 1団体 | 22人 (5減、147人減) | 合計 | 43団体 | 1,042人 (2増、264人減) | ○横手市内 | 31団体 | 759人 (1増、255人減) | ○横手市外 | 9団体 | 239人 (3増、36人増) | ○県外 | 3団体 | 44人 (2減、45人減) |
| | | 前年比 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○学校授業の一貫としての利用 | 5団体 | 250人 (増減なし、90人増) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○研修会としての利用 | 4団体 | 41人 (1増、4人増) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○親子会又は子供会としての利用 | 11団体 | 227人 (1増、153人減) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○他施設の事業として利用 | 12団体 | 352人 (4増、68人増) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○スポ少及び部活動として利用 | 10団体 | 150人 (1増、126人減) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○その他 | 1団体 | 22人 (5減、147人減) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 43団体 | 1,042人 (2増、264人減) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○横手市内 | 31団体 | 759人 (1増、255人減) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○横手市外 | 9団体 | 239人 (3増、36人増) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○県外 | 3団体 | 44人 (2減、45人減) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> ・市内に農山村体験や野外活動体験を行うことができる施設を整備したことにより、市内・外の小中学校やスポ少・親子会等に広く利用してもらうことができた。また、増田地域グリーン・ツーリズム推進協議会や関係機関と連携し、県内外に広く情報発信を行った。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 今後の課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・県内外への情報発信と年間を通した利用率の向上。特に積雪の多い冬期間の利用率が課題である。 ・冬期間における体験プログラムの充実、グリーン・ツーリズム関係の利用向上に努めたい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|---|------|-------------|
| | | 分野 | 2. 生涯学習の推進 |
| 項目 | (3) 学習の場と推進体制の整備 | 担当部課 | 教育総務部 生涯学習課 |
| 点検・評価対象事業名 | ②社会教育施設長寿命化事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 45,628 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>市内に存在する社会教育体育施設について、長期的な視点に基づいて修繕計画を策定し、予防的修繕を行うことによる施設の長寿命化を目的とする。施設の破損や老朽化による受動的な修繕ではなく、長寿命化修繕計画に沿った合理的な予防的修繕を行うことで施設維持費(修繕費)の低コスト化を図る。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>社会教育施設の自主点検を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会教育施設長寿命化計画に則り「建物の維持管理点検シート」を用いて春・秋2回自主点検を行った。 <p>社会教育施設長寿命化事業(過疎対策事業)による改修工事の実施 45,628千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 醍醐公民館屋根改修事業 15,668千円 雄物川生涯学習センター屋根吹き替え工事 15,953千円 大森体育館屋根塗装改修工事 14,007千円 | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> 社会教育施設長寿命化計画に沿った予防的修繕を実施することで、施設維持費の低コスト化が図られる。 過疎地域自立促進特別事業として実施するため、この計画に基づいて実施される修繕等の経費は、ソフト事業として過疎債の対象となる。 社会教育施設建物維持管理の手引きに基づき、施設職員が容易に維持管理を行うことができるようになった。 | | |
| 今後の課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> 計画に沿った予防的修繕を実施し、施設維持費の低コスト化を図るとともに、存続する建物については、計画的な改修工事を行う。 | | |

| | | | |
|----------------|--|------|------------|
| | | 分野 | 2. 生涯学習の推進 |
| 項目 | (4) 図書館の充実 | 担当部課 | 中央図書館 |
| 点検・評価対象事業名 | ① 図書館運営(中央・雄物川、横手、増田、平鹿、大森、十文字) | | |
| 対象事業において支出した金額 | 78,569 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>知的で心豊かな市民生活及び地域社会の実現をめざして、地域や学校・家庭など様々な場における情報ニーズに応えることのできる環境を整える。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・山内図書館及び大雄図書館を山内公民館図書室及び大雄公民館図書室として運営することとし、現状に合わせ公民館の管理とした。 ・図書館職員全員で、毎月1回の情報交換会を実施し、各図書館との連携を図った。 ・子どもの読書活動の推進について、学校巡回図書館(定期配本サービス)を学校司書補助未配置校を含む17校で実施、学校図書館支援事業による学校図書室へのアドバイスや意見交換、市立図書館と学校図書室関係職員との合同研修会開催などを通じて、読書環境の整備を図った。 ・各図書館における定例おはなし会(延べ66回)に加え、イベント等での出張図書館(公民館子育て講座)、こども教室(横手・増田・平鹿・雄物川図書館)、「本のリユース市」開催など、様々な事業展開を図った。 ・主要6図書館での商用データベース供用実施、図書館ボランティアの活動(延べ101人)、雑誌スポンサー制度の導入(H26.3月末:5社より13誌提供)など、課題解決サービスへの取り組み強化と、市民との連携を図った。 ・横手市の未来を担う子供たちが、読書の大切さを学び、生きる力を育むよう、総合的かつ計画的に子どもの読書活動を推進するため、「横手市子ども読書活動推進計画」を策定した。 | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> ・山内公民館図書室及び大雄公民館図書室としたことで、地区住民の要望に柔軟かつ迅速に応え、書籍等の更なる活用が期待できる。 ・図書館職員の情報交換会を通して、非常勤職員間のコミュニケーションが図れ、また各図書館間での業務内容の統一化が出来た。 ・図書館利用率(実利用者数÷人口)は、市全体ではほぼ横ばいであり、地区別では、横手、増田、大森、十文字、大雄において利用率が向上した。(H25地域別:横手6.67%、増田12.04%、平鹿8.13%、雄物川8.41%、大森10.64%、十文字7.73%、山内3.62%、大雄6.91%) 個人資料貸出数は、市全体で246,323冊(前年比1.05%増)、地区人口1人当たりの貸出数は、2.67冊(前年比6.37%増)と向上した。 ・個人延べ利用者数は77,289人(前年度比1.28%増)、うち子ども16,373人(前年度比4.63%増)、一般60,916人(前年度比0.42%増)と利用者層が拡大した。学校巡回図書館や支援事業等の実施による小中学校における読書環境の整備により、子どもの市立図書館利用も増加するという良い結果に結びついている。 | | |
| 今後の課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用率の向上のために、市内全域サービスの強化と体制の整備、利用環境の一層の整備を促進していく。 ・就学前の子どもや小学生高学年以上の図書館利用拡大のための環境整備を行う。 ・子どもの読書活動推進については、学校巡回図書館や学習活動向けの団体貸出、学校図書室の整備支援等とあわせて、学習活動での図書館利用メニューの提案や市立図書館と学校図書室との連携企画の実施など、ソフト面での取り組みを図る。 | | |

| | | | |
|----------------|---|------|-----------|
| | | 分 野 | 2.生涯学習の推進 |
| 項 目 | (4)図書館の充実 | 担当部課 | 中央図書館 |
| 点検・評価対象事業名 | ②読書感想文コンクール事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 694 千円 | | |
| 事業の目的 | 読書の楽しさを伝え、本に親しむきっかけを提供する。 | | |
| 事業の実施状況 | <p>募集作品</p> <p>①文章部門 読書感想文・エッセー・書評・短編小説等</p> <p>②短文部門 読書に関する標語・俳句・短歌・川柳・一行詩等</p> <p>③絵画部門 読書感想画・読書に関するポスター・絵手紙等</p> <p>○ 6月 市内の生涯学習施設、幼稚園、保育園、小中学校、高等学校に募集要項及び応募票を配布するとともに、市報、ホームページ、FM放送で作品を募集。応募締切は11月6日。</p> <p>○12月 教職員13名の審査委員による審査により入選作品を選考。入賞作品の中から総括審査員による入賞作品の選考を行う。</p> <p>○ 1月 11日(土)「わいわいぷらざ」にて、市長賞、教育長賞、中央図書館長賞の入賞者表彰式を行うと共に13日(月)までの3日間、同会場オープンスペースにて入賞、入選作品76点の展示会をおこなう。</p> <p>○ 2月 入賞入選作品の作品集を作成し市内施設、幼稚園、学校、県内図書館等に配布する。</p> | | |
| 事業の効果等 | <p>第8回となる当コンクールには、4歳から90歳までの幅広い年代の方々から文章部門に139点、短文部門に2,967点、絵画部門に350点、計3,456点の応募があった。昨年度に比較し515点多くの応募があったものである。</p> <p>当コンクールが、読書の楽しさや大切さを知り、すばらしい作品を生み出すきっかけになったものと思われる。</p> <p>また、作品展には大雪で外出が困難な中、322名の方々が訪れた。</p> | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>絵画部門に応募する幼稚園・保育園が8施設と少ない状況である。</p> <p>今後応募へのPRを行っていきたい。</p> | | |

| | | | |
|----------------|---|------|--------------|
| 3 地域文化の振興 | | 分 野 | 3. 地域文化の振興 |
| 項 目 | (1)文化財の指定と保存活用 | 担当部課 | 教育総務部 文化財保護課 |
| 点検・評価対象事業名 | ①指定文化財保護管理事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 1,964 | | 千円 |
| 事業の目的 | <p>指定文化財の保全のために、天然記念物(樹木、トゲウオ)のパトロール及び養生を行い、必要な標柱・説明板の補修及び更新を行う。また、管理者の維持補修について支援を行う。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>平成25年度の事業として「羽黒の柳」養生事業、吉田城跡草刈・殺虫剤散布業務、トゲウオ(トミヨ及びイバラトミヨ)生息地の監視及び維持管理、ニホンカモシカ保護事業を実施した。</p> <p>文化財保護補助事業としての波宇志別神社神楽殿(重文)の維持支援、旧日新館(県指定)の維持支援、釣瓶山八幡神社(市指定)の補修、増田感恩講事務所(市指定)の修復、佐藤多三郎家内蔵(市指定)の修復、谷藤家客間棟(市指定)の補修に対して補助を行った。</p> | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「羽黒の柳」養生事業:不定根を保護、促進することにより樹勢回復が図られた。 ・「吉田城跡」草刈、殺虫剤散布業務:史跡の環境整備の一環として草刈、殺虫剤散布を実施することにより史跡環境整備の保全を行なうことができた。 ・「トゲウオ生息地」の維持管理:トゲウオ生息地の清掃、水位測定、モニタリング等を実施し当該指定地の枯渇防止を目的とした文化財保護を行うことができた。 ・豪雪やシロアリに被害等について、所有者や県等と共同して補修を行うことができた。 | | |
| 今後の課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・イバラトミヨの沼について2月に1週間程度荒小屋で水が極端に減ったためポンプ稼働準備を行ったが、短期間で回復し、実際の稼働には至らなかった。夏場のアオコの発生は引き続きひどいため、琵琶沼については、アオコの除去作業を行った。しかし、産卵期には行えないため、水車に増設等を検討すべきと思われる。 ・今年度は、建物等の雪害関連災害復旧を多く行なうことができたが、H26も雪害の相談が年度途中で出てくることが予想され、大規模な補修にいたらない前に対応できるよう注視していく必要がある。 | | |

| | | | |
|----------------|---|------|--------------|
| | | 分 野 | 3. 地域文化の振興 |
| 項 目 | (1)文化財の指定と保存活用 | 担当部課 | 教育総務部 文化財保護課 |
| 点検・評価対象事業名 | ②市内本調査事業(県委託、国庫補助) | | |
| 対象事業において支出した金額 | 76,984 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>県営基盤整備事業の実施に伴い消滅する埋蔵文化財について事前に発掘調査を行い、記録保存することを目的とした調査。秋田県平鹿地域振興局からの受託事業。 なお、総調査費の内、開発者負担分である92.5%を市内本調査(県委託)から、残る受益者負担分の7.5%は市内本調査(国庫補助)から執行する。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>・調査対象遺跡名 神谷地・小出遺跡(雄物川地区)、宮下・十文字遺跡(横手地区) 金屋遺跡(平鹿地区)</p> <p>・調査理由 県営宮田地区及び清水町地区農地集積加速化基盤整備事業に伴う緊急調査</p> <p>・調査面積 10,113㎡</p> <p>・調査期間 平成25年5月1日～10月30日</p> <p>・整理期間 平成25年9月3日～平成26年3月20日</p> | | |
| 事業の効果等 | <p>文化財保護法に基づいた手続きを経て、遺跡のうち開発により消滅する部分の発掘調査を行ったことで、埋蔵文化財の記録保存が図られた。また秋田県では数少ない縄文時代中期後葉の集落跡や古墳時代の集落跡が確認されたことで、秋田県の歴史を解明する一助と成り得た。 また、地域住民等に向けた説明会を開催し、今回調査で得られた縄文時代から中世に至る地域の様相について報告したことで、地域住民の郷土への愛着の向上に資することができたと考えられる。</p> | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>開発側との調整の結果、消滅する遺跡面積が大きくなりすぎると、発掘対象面積も過大となり、現在の人員体制では全面積の調査を実施できなくなる。なお、秋田県教育委員会は原則として人的支援は行わない方針である。</p> | | |

| | | | |
|----------------|--|------|--------------|
| | | 分野 | 3. 地域文化の振興 |
| 項目 | (1)文化財の指定と保存活用 | 担当部課 | 教育総務部 文化財保護課 |
| 点検・評価対象事業名 | ③市内遺跡詳細分布調査事業(国庫補助) | | |
| 対象事業において支出した金額 | 1,359 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>県営基盤整備事業等の各種開発行為に伴う文化財保護を目的とした埋蔵文化財の範囲確認調査。平成25年度の事業予定区域において先行して試掘調査を実施し、埋蔵文化財の有無及び遺跡範囲等を確認したうえで、開発側と埋蔵文化財の保護に係る工法の変更等の調整を行う。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>■調査対象遺跡及び調査面積</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄南部地区 30.5ha (県営農地集積加速化基盤整備事業に伴うもの) ・金屋地区 13ha (県営農地集積加速化基盤整備事業に伴うもの) | | |
| 事業の効果等 | <p>栄南部地区の分布調査区では、新発見の遺跡(仮称:下桜沢遺跡)を発見した。出土遺物より9世紀後半と考えられる。範囲確認調査区では、調査区内における前村B遺跡の存在を改めて確認した。前村B遺跡は、縄文時代及び平安時代の複合遺跡であると考えられる。また、調査区内ではないものの、北に隣接する「楯山」、外目神社及びそこから市道を挟んだ東方に立地する平場は、踏査の結果中世城館と判明した。</p> <p>金屋地区では調査の結果、調査区内には埋蔵文化財包蔵地は存在しないと判断した。</p> | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>栄南部地区の調査区内で埋蔵文化財の存在を確認したため、保護のための現状保存あるいは発掘調査による記録保存等の対応が必要である。保護方法については原因者との協議が必要となる。</p> <p>平成27年度以降、県営基盤整備面積が大幅に拡大する予定であり、事前調査実施体制を十分に検討する必要がある。</p> | | |

| | | 分野 | 3. 地域文化の振興 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|---|------|--------------|-------|------|--|------|------|-------|-------|------|--------------|----|---|---|---|---|--------|---|---|---|---|---|
| 項目 | (1)文化財の指定と保存活用 | 担当部課 | 教育総務部 文化財保護課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 点検・評価対象事業名 | ④文化財普及活動事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象事業において支出した金額 | 2,792 千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の目的 | <p>市内の文化財についての情報発信を行い、市民の地域の歴史文化への関心の向上を図る。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の実施状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・雄物川郷土資料館において様々な視点での特別展を4回(横手の染と織、横荘線展、M.M.スマイザー展、ひな人形展)開催し多く反響があった。特別展のパンフレットも好評で特別展終了後も送付の依頼があった。 ・来館者の利便性の向上のため雄物川郷土資料館及び民家苑のパンフを新たに作成した。 ・延26校の小中学校の総合学習を資料館で受け入れた。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>市内小学</th> <th>市内中学</th> <th>市外小学校</th> <th>市外中学校</th> <th>市外高校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>雄物川郷土資料館・民家苑</td> <td>19</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>後三年資料館</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> | | | | | | 市内小学 | 市内中学 | 市外小学校 | 市外中学校 | 市外高校 | 雄物川郷土資料館・民家苑 | 19 | 0 | 1 | 1 | 0 | 後三年資料館 | 3 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| | 市内小学 | 市内中学 | 市外小学校 | 市外中学校 | 市外高校 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 雄物川郷土資料館・民家苑 | 19 | 0 | 1 | 1 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 後三年資料館 | 3 | 1 | 0 | 1 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット、チラシ、リーフレット等においては、見やすさと入館記念になるものとして好評を得た。 ・総合学習では昔のくらしということで実際に資料に触りながら学習してもらった。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 今後の課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある特別展や特別講座の開催、他団体のイベントへの協賛など、様々な形での情報発信がさらに必要と思われる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | 分野 | 3. 地域文化の振興 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|---|-------|--------------|-------|-------|-------|------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 項目 | (2) ふるさとよこて博物館構想 | 担当部課 | 教育総務部 文化財保護課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 点検・評価対象事業名 | ①各資料館の運営 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象事業において支出した金額 | 17,268 千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の目的 | 各資料館では地域、歴史等に関連する資料を収集展示し、郷土文化の充実に寄与することを目的としている。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の実施状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・雄物川郷土資料館・・・歴史、考古、美術、民俗、自然の各分野にわたって資料を展示しており市の中心的な施設である(特別展を4回開催)。 ・雄物川民家苑・・・市指定の民家4棟を中心とした県内唯一の屋外展示施設として公開され、総合学習や各種行事等に利用されている。 ・ほろわの里資料館・・・「波宇志別神社神楽殿」を解体修理した際の資料と、「霜月神楽」の資料を中心に展示し一般公開をしている(5月～11月開館)。 ・後三年の役金沢資料館・・・後三年の合戦(役)に関する資料を中心に展示し一般公開をしている。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> ・雄物川郷土資料館では、県博と連携した「横荘線展」や緊急雇用の成果を利用した「M.Mスマイザー展」など特色ある特別展を4回実施した。隣接する民家苑と組み合わせて、小中学校の総合学習の場としての利用が確立しつつある。 ・後三年の役金沢資料館では、金澤八幡宮の宝物や近年の発掘の成果を展示し、多くの来客があった。 ・ほろわの里資料館は、波宇志別神社神楽殿をただ見学するだけでなく、その内容について知識を深める場として重要である。 ・平鹿農村伝承館は、浅舞絞り保存会の活動の場として利用されている。今年は、あやめまつりに合わせて絵画展(額装)を開催した。 ・雄物川郷土資料館の屋根や伝承館の消防設備など7件1,979千円の補修等を行った。 ・雄物川郷土資料館の入館者は、増加傾向にあるが、後三年の役金沢資料館は減少した。H22の国史跡指定、H23の平泉世界遺産選定の効果が薄れてきたこと、H25に陣館遺跡から話題性のある出土品がなかったことなどが考えられる。 <table border="1" data-bbox="306 1570 1409 1697"> <thead> <tr> <th>入館者数の推移(人)</th> <th>H25</th> <th>H24</th> <th>H23</th> <th>H22</th> <th>H21</th> <th>H20</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>雄物川郷土資料館</td> <td>3,226</td> <td>3,107</td> <td>3,124</td> <td>2,058</td> <td>2,646</td> <td>2,682</td> </tr> <tr> <td>後三年資料館</td> <td>4,641</td> <td>6,588</td> <td>6,267</td> <td>4,918</td> <td>4,826</td> <td>5,160</td> </tr> </tbody> </table> | | | | | | 入館者数の推移(人) | H25 | H24 | H23 | H22 | H21 | H20 | 雄物川郷土資料館 | 3,226 | 3,107 | 3,124 | 2,058 | 2,646 | 2,682 | 後三年資料館 | 4,641 | 6,588 | 6,267 | 4,918 | 4,826 | 5,160 |
| 入館者数の推移(人) | H25 | H24 | H23 | H22 | H21 | H20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 雄物川郷土資料館 | 3,226 | 3,107 | 3,124 | 2,058 | 2,646 | 2,682 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 後三年資料館 | 4,641 | 6,588 | 6,267 | 4,918 | 4,826 | 5,160 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 今後の課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き従来と違った視点、提示の方法による特別展や特別講座を開催し、入館者を増加させたい。 ・展示資料の相互活用を進め、資料の有効活用を図るようにしていきたい。 ・資料館には各地に分散しており、電子アーカイブス化などにより、全市の資料が見渡せる環境を作る必要がある。その準備として緊急雇用を利用したリスト作成に取り組んだ。今後もこれの改訂を続けていく。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|--|------|--------------|
| | | 分野 | 3. 地域文化の振興 |
| 項目 | (3)後三年合戦(役)史跡保存整備計画 策定調査 | 担当部課 | 教育総務部 文化財保護課 |
| 点検・評価対象事業名 | ①後三年合戦関連遺跡調査事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 7,134 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>・後三年合戦関連遺跡群の内容確認調査。(金沢柵の所在を証明し、国史跡にするための調査)</p> <p>・国史跡にすることで効率的かつ確実な保全管理が可能となるほか、全国的に知名度が向上し、市内における滞在型観光の対象となると考えられる。(増田のまちなみと後三年合戦関連遺跡群とセットとして)</p> <p>・後三年合戦は教科書にも掲載されている日本史上重要かつ著名な出来事であることから、関連遺跡の解明及び国による史跡指定は市民の郷土への愛着の増大に寄与するほか、市外在住の横手市出身者がふるさとに再び目を向けるきっかけとなり、交流人口の増加等に好影響を及ぼすことが期待できる。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>・調査対象遺跡名 陣館遺跡(金沢字根小屋地内:金沢柵推定地)</p> <p>・調査理由 金沢柵の特定及び史跡指定のための調査</p> <p>・調査面積 401㎡</p> <p>・調査期間 平成25年9月17日～12月10日</p> <p>・整理期間 平成25年12月13日～平成26年3月31日</p> | | |
| 事業の効果等 | <p>・中世末期の寺院跡の可能性のある掘立柱建物跡を2棟を検出した。さらに後三年合戦の時代として国史跡指定を受けた大鳥井山遺跡と同じような四面に庇がある掘立柱建物跡の可能性のある建物跡を検出したことで、金沢柵の一部の可能性も高まった。</p> | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>・金沢柵推定地と沼柵推定地に関しては未だ推定域であり、国史跡になるためには、その遺跡範囲の特定が必須で、今後、予備調査及び情報収集が必要不可欠である。</p> <p>・大鳥井山遺跡が国史跡に至るまでは11回の大規模な調査をおこなっていることから、現在のところ調査面積が少ない金沢柵と沼柵については、一定期間に渡るまとまった面積の調査の実施が必要である。</p> <p>・金沢柵と沼柵が国史跡指定に至るまでの期間は、公開講座などを行い、地域住民への関心度を維持していかなければならない。</p> | | |

| | | | |
|----------------|--|------|--------------|
| | | 分野 | 3. 地域文化の振興 |
| 項目 | (3)後三年合戦(役)史跡保存整備計画 策定調査 | 担当部課 | 教育総務部 文化財保護課 |
| 点検・評価対象事業名 | ②後三年合戦保存活用整備事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 2,004 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>・後三年合戦関連遺跡群のひとつである大鳥井山遺跡が平成22年2月22日に横手市で初の国史跡となった。国史跡となった場合に求められる遺跡の保存活用行うもの。</p> <p>・大鳥井山遺跡が国史跡になったことから、大鳥井山遺跡をはじめとした後三年合戦遺跡群の日本及びこの地域の重要性をわかりやすく広く市民に周知するもの。</p> <p>・後三年合戦は教科書にも掲載されている日本史上重要かつ著名な出来事であることから、関連遺跡の解明及び国による史跡指定は市民の郷土への愛着の増大に寄与するほか、市外在住の横手市出身者がふるさとに再び目を向けるきっかけとなり、交流人口の増加等に好影響を及ぼすことが期待できる。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>・後三年合戦シンポジウムの開催 平成25年11月3日 市民会館 来場者220人</p> <p>・金沢柵公開講座の開催 平成26年3月8日 美郷町公民館まなびおん美郷来場者数200人</p> <p>・沼柵公開講座の開催 平成25年9月7日 雄物川コミュニティセンター 来場者180人</p> <p>・後三年合戦ガイドマップ作成 10,800部</p> | | |
| 事業の効果等 | <p>・シンポジウムや公開講座では、600名の来場があり、事業に対する興味の高さが伺われた。特に金沢柵公開講座では、古代の金沢柵と中世の金沢城が違うということが明らかになってきており、今後金沢柵の国指定史跡を目指す上で重要な指摘があった。</p> <p>・ガイドマップは関連施設などへ配布し、大鳥井山遺跡をはじめとした後三年合戦遺跡群を理解するうえでわかりやすいと好評を得た。後三年合戦関連遺跡の散策ということでもオススメルートの記載もあり利用しやすいとの意見も得た。</p> | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>・全国の歴史観光地のほとんどは文化庁による国史跡や重要伝統的建造物群などの指定を受けており、文化財が雇用や観光客を生むということをさらに広く周知する必要がある。増田の町並みのその効果が大きい。</p> <p>・平成23年6月に平泉が世界遺産に登録されたが、その基礎を築いた清衡関連の遺跡として横手市の後三年合戦遺跡群が存在する。これらについて短期的にはパンフレット、看板の設置、中長期的にはガイダンス施設(ビジターセンターなど拠点施設)や史跡公園としての整備が必要である。</p> <p>・国指定の重要伝統的建造物群の増田の町並みは目に見えやすく理解しやすいが、後三年合戦遺跡群については、写真・遺物など全貌を理解するためのビジターセンターが必要であり、その建設が望まれる。</p> | | |

| | | | |
|----------------|--|------|-------------|
| | | 分野 | 3. 地域文化の振興 |
| 項目 | (4) 芸術文化の振興 | 担当部課 | 教育総務部 生涯学習課 |
| 点検・評価対象事業名 | ① 芸術文化推進事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 3,090 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>市民の芸術文化活動の振興とともに、国県その他団体の施策を活用し、優れた舞台芸術に触れる機会の提供と市民の発表の機会の確保を図る。</p> <p>また、市で所有している絵画等の美術品を保管している美術品収蔵庫の維持管理を行う。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>○芸術鑑賞機会の提供 「秋田県青少年劇場」は県教育委員会、市教育委員会、芸術文化法人の共催事業。小学校1校が採択・実施した。</p> <p>また、文化庁事業である「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」の「巡回公演事業」は5小中学校、「派遣事業」は中学校1校が採択され実施することができた。</p> <p>○美術品収蔵庫の維持管理 市所有の絵画等を良好な状態で保存するために美術品収蔵庫の適正な維持管理に努めた。美術品収蔵庫屋根塗装および空調自動制御修繕を実施した。</p> <p>※毎年実施している市民ステージ祭については、国民文化祭前年祭として国文祭推進事務局が主催した。</p> | | |
| 事業の効果等 | <p>○芸術鑑賞機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生の演劇やコンサートを鑑賞することにより、子ども達の情操教育に寄与している。 ・公演を鑑賞した児童生徒から大変好評で、学校側からも事業の継続を望まれている。 <p>○美術品収蔵庫の維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市所有の絵画等を良好な状態に保つことができています。 | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>・県や文化庁の事業では、予算や公演回数の関係から毎年鑑賞希望の小中学校すべてに対応できない状況である。</p> | | |

| | | | |
|----------------|--|------|-------------|
| | | 分野 | 3. 地域文化の振興 |
| 項目 | (4) 芸術文化の振興 | 担当部課 | 教育総務部 生涯学習課 |
| 点検・評価対象事業名 | ①芸術文化推進事業(市民会館) | | |
| 対象事業において支出した金額 | 35,454 千円 | | |
| 事業の目的 | 市民の文化の発展を図り、その生活の向上及び社会福祉の増進に寄与するため、設置している。 | | |
| 事業の実施状況 | 開館日数 300日 (平成24年度 299日) 稼働日数 234日 (平成24年度 243日)、稼働率 78.0%(平成24年度81.3%) ホール稼働日数 125日 (平成24年度 126日)、稼働率 45.3%(平成24年度42.1%) ホール公演数 55公演 (平成24年度45公演) 年間利用者数 72,223人(平成24年度49,303人) 使用料収入 5,878,468円(平成24年度6,940,379円) | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民会館での発表会を目標に活動している文化団体も多く、地域文化振興に寄与している。 ・ホールは市内で最大の座席数。演劇・音楽・舞踏など多様な公演が開催され、市民が高いレベルの芸術に触れることができる機会を提供している。 | | |
| 今後の課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・国文祭関連事業の増加に伴ってホール稼働数および利用者数は増えているが、自主文化事業委員会主催・共催事業の公演入場者数は伸び悩んでいる。観客(受け手)側への舞台文化に対する関心の醸成のため、各学校の芸術鑑賞への協力や、催事の情報発信を見直すなど検討していく。 ・市民会館建は昭和43年に建設、また平成4・5年リニューアルされ現在に至っている。建物の躯体は45年を経過、その他の外壁や屋根・機械設備などは20年を経過しており、老朽化が著しく故障も多い。ホールの命である舞台吊物機構の改修を平成25年から3ヶ年計画で実施しているが、この改修を行っても推奨耐用年数は10～15年を延ばすだけであり、外壁や空調は10年維持するには非常に難しい状況である。このため、市民会館の建て替えについて検討していく必要がある。 | | |

| | | | |
|----------------|---|------|-------------|
| | | 分野 | 3. 地域文化の振興 |
| 項目 | (4) 芸術文化の振興 | 担当部課 | 教育総務部 生涯学習課 |
| 点検・評価対象事業名 | ① 芸術文化推進事業(石坂洋次郎文学記念館) | | |
| 対象事業において支出した金額 | 4,209 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>市にゆかりのある作家、石坂洋次郎の文学的業績をたたえとともに、後世へ伝え、文化の振興へ資することを目的に設置している。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>開館日数 308日(平成24年度307日) 来館者数 3,695人(平成24年度4,049人 :前年度比 91.3%) 入館料収入 100,600円(平成24年度116,300円) ※石坂洋次郎文学記念館・後三年の役金沢資料館・横手城展望台・かまくら館の4館共通入館券。</p> | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> ・根強い石坂文学人気により、市外や県外からの来館者が多く、横手市の観光スポットの1つとして挙げられる。 ・文学館に展示されている大正～昭和の時代の横手市の風景写真や資料により、横手の歴史を知ることができる。 | | |
| 今後の課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・来館者の多くが中・高齢者であり、特に市内の若年層の来館が少ない状況である。企画展の開催など展示方法の検討やマスメディアを活用し、普及活動を実施したい。 ・案内表示が少なく場所がわかりづらいとのご指摘を受けている。看板または表示について対応を検討する。 | | |

| | | | |
|----------------|---|------|------------|
| | | 分野 | 3. 地域文化の振興 |
| 項目 | (4) 芸術文化の振興 | 担当部課 | 増田生涯学習センター |
| 点検・評価対象事業名 | ②マンガ文化交流促進事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 4,707 千円 | | |
| 事業の目的 | <ul style="list-style-type: none"> ・増田まんが美術館常設展示作品の充実(国内外漫画家の原画収蔵) ・国民文化祭開催に関連した事業の充実 | | |
| 事業の実施状況 | <p>まんが美術館の常設展示作品については、美術館の展示・収蔵の趣旨に賛同していただいた漫画家へ貸与期間を定めない永代拝借料(30万円)を支払い収蔵しているが、平成7年のオープンから3年間は順調に収蔵を続けていたものの、その後は十分な予算措置ができない状況の中、年1作家の収蔵を続けてきた。加えて海外の漫画家作品については、オープン時に収蔵した10人(すべて韓国漫画家)の原画しか収蔵できておらず、国文祭の開催までに国内の漫画家はもちろんのこと、東アジアを中心とした海外漫画家の原画を収蔵し、常設展示を充実させることが急務であるとの考えのもと、平成24年度から原画収蔵事業を強化してきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H25年度実績 国内漫画家2名、海外漫画家40名(香港・台湾)の原画収蔵 また、上記収蔵事業に加え、例年開催している特別企画展を充実させる追加イベントを開催し、国民文化祭開催への機運醸成に努めた。 ・土田世紀回顧展追加イベント(水谷修講演会、トークイベントの開催) ・蔵を活用したスタンプラリーの開催(11/2・3、もやしもんスタンプラリー国際教養大学の学生との共同事業) | | |
| 事業の効果等 | <p>海外漫画家の原画収蔵については、倉田よしみ先生が中心となり、交渉や収蔵を続けていただいているが、海外漫画家からの反響も大きく、当初の予定を上回る漫画家から原画を寄贈していただくこととなった。</p> <p>また、企画展イベント強化の一つとして開催した「もやしもんスタンプラリー」は、国際教養大学生とのタイアップイベントとして、新たな連携を構築することができた。また、同スタンプラリーは、増田の内蔵(日の丸醸造、蔵の駅)とまんが館を往来して行う事業であったが、新たな客層がそれぞれの施設を訪れるきっかけとなり、参加者及び蔵の所有者からも好評を得たことから、増田のまちなみとまんが館をつなげる新たな導線を検討していく上でも貴重な体験となった。</p> | | |
| 今後の課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・原画収蔵事業を強化継続させるための具体的手法の確立 ・それを活かした常設展の充実を進め、「マンガを活かしたまちづくり」の展開と国内外からの誘客促進方法の検討 ・国民文化祭事業を成功させ、それをマンガ文化交流促進につなげる事業展開の工夫 ・「もやしもんスタンプラリー」の貴重な体験を踏まえ、増田のまちなみとの連携をさらに強化させる仕組みづくり | | |

| | | | |
|----------------|---|------|---------------|
| 4 生涯スポーツの振興 | | 分野 | 4. 生涯スポーツの振興 |
| 項目 | (1)ライフステージとニーズに合ったスポーツサービス | 担当部課 | 教育総務部 スポーツ振興課 |
| 点検・評価対象事業名 | ①奥羽横断駅伝競走大会事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 908 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>北上市、横手市、由利本荘市の主催で、日本海と太平洋を結ぶ画期的な駅伝競走となっている。秋田、岩手両県のスポーツ、文化、経済の交流を図ることを目的に昭和36年から開催されており、今回で53回目となる。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>11月1日(金)～3日(日)の3日間開催した。1日は開会式を行い、2日(土)は、午前9時に北上市役所をスタートし、横手市役所横手地域局までの6区間60.4km、3日(日)は、午前9時に横手市役所横手地域局前をスタートし、由利本荘市役所まで6区間56.6kmを出場チームの襷で繋いだ。各県対抗の部6チーム、一般の部21チーム、高校の部3チームの計30チームの参加による大会となった。</p> | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> ・横手市、北上市、由利本荘市の関係者の連携と、秋田陸上競技協会と岩手陸上競技協会など多くの関係機関との連携により、53回という歴史ある大会を通じて横手市を広くPRしている。 ・横手市のゴール、スタートを横手地域局前にしたことにより、市街地を疾走する選手にとって、沿道の多くの市民の声援が大きな力になった。 また、沿線商工会会員による応援及び観客への餅の提供など大会の盛り上げに協力していただいた。 ・東北管内の大学等の参加が増加し、大会の認知度が高まりつつある。 また、選手・役員等の市内宿泊及び飲食により経済的な効果もある。 | | |
| 今後の課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・一般の部に関東地域の大学の参加希望があり、これにより大会要項、参加資格等の見直しが必要となってきた。 ・高校の部については、各種大会等の開催日程との出場選手の調整を含め参加の督励を図っていく。 ・陸上競技協会との連携による競技運営の充実(各中継所の交通渋滞等の緩和や計測処理方式の充実) ・交通整理員の配置や安全対策費の経費の掛かり増しにより財源確保の問題が生じてきた。 今後も3市共催事業として、より一層連携を深めていく。 | | |

| | | | |
|----------------|--|------|---------------|
| | | 分野 | 4. 生涯スポーツの振興 |
| 項目 | (1)ライフステージとニーズに合った スポーツサービス | 担当部課 | 教育総務部 スポーツ振興課 |
| 点検・評価対象事業名 | ②スポーツのまちづくり事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 10,702 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>スポーツを通じたまちづくりと市民の健康づくり、競技力の向上を目的に、トップアスリートによるクリニックの開催や、合宿及び各種大会誘致に取り組み、横手の魅力(豊かな自然、豊かな食材、充実したスポーツ施設)を継続的に売り込み、地域経済の波及効果と地域活性化に繋げていく。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>【チャレンジデー2013in横手】 全市一体で初参加となったチャレンジデー2013が5月29日開催され、兵庫県豊岡市と対戦した。各地域で多彩なスポーツ行事が実施され、横手市の参加率は71%を数え、勝利をおさめた。 チャレンジデーを通して、市民の健康づくりや体を動かすきっかけを提供することができた。</p> <p>【大学硬式野球部合宿誘致事業】 8月3日から8日まで中央学院大学硬式野球部48名、8月18日から31日まで日本体育大学硬式野球部90名がグリーンスタジアムを会場に実施された。</p> <p>【プロ野球イースタン公式戦東北楽天VS日本ハム】 横手市で3年ぶりによこてグリーンスタジアムを会場に開催された、アマチュア野球と違うプロ野球の迫力あるスピードとパワーに観衆が熱い声援をおくった。</p> <p>【ベースボールクリニック】 「横手から甲子園へ」を合言葉に、元日産自動車硬式野球部員を講師に、高校へ進学後硬式野球部へ挑戦する意向のある市内の中学3年生(参加者40名超)を対象とした、硬式球への転換トレーニングをグリーンスタジアムにて実施。</p> <p>【秋田ノーザンハピネッツ強化合宿】 シーズンインに向け横手体育館を会場に強化合宿を2日間にわたり実施。後援会、市民の方々との交流レセプションをY2プラザにて実施。約300名の参加者。</p> <p>【bjリーグ公式戦】 秋田ノーザンハピネッツホームゲーム公式戦を、富山グラウジーズを迎えて増田体育館を会場に開催。トップレベルの迫力のあるプレーが随所に見られ、連日満員の観衆が熱い声援を送った。 ハピネッツは念願のプレイオフファイナル出場を決め有明進出となった。</p> <p>【横手わか杉カップ東日本中学バレーボール大会】 全国都道府県対抗中学バレーボール大会に出場する東北ブロック及び近隣県選抜チームを招聘し、秋田県チームの強化はもとより、地元バレーボール競技の普及及びバレーボールのまち横手を広く県内外へ周知する。また、全国大会で活躍できる高校の強化と、選手の輩出に繋げる事を目的に開催。</p> <p>【チャンピオンズカップ横手東北中学校新人バスケットボール大会】 東北各県の中学校新人バスケットボール大会に於いて、上位の成績を修めた男女24チームの参加により開催。</p> | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> ・各種スポーツクリニックでは、トップアスリートの指導による地元小中高生のレベルアップと意識改革ができた。 ・多様なスポーツ大会等でトップレベルのプレーを観戦することで、「見る・応援する」ことによるスポーツへの関心を高められた。 | | |
| 今後の課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツまちづくり事業実行委員会との連携により、事業内容については、毎年度見直しを図り、社会・地域のニーズに適合した事業や、将来的に小中高生の競技力向上に繋がる内容となるよう検討する。 ・市内スポーツ施設を有効活用しての「合宿誘致」や、「大会誘致」については施設の規模や実施できる種目及び宿泊関係や食事など数々の調整が必要となってくるため、コンベンション協会や観光部局との連携が重要となっている。 | | |

| | | | |
|----------------|--|------|---------------|
| | | 分野 | 4. 生涯スポーツの振興 |
| 項目 | (1)ライフステージとニーズに合ったスポーツサービス | 担当部課 | 教育総務部 スポーツ振興課 |
| 点検・評価対象事業名 | ③大会補助事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 8,353 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>東北、全国大会などの競技大会に出場するスポーツ少年団員等への支援に努めるほか、地域活性化を目的に開催されるスポーツイベントに対して支援する。</p> <p>東北、全国大会規模の開催費一部補助。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・全国大会等出場費補助 ジュニア層の健全育成や競技力の向上を目的として、全国大会や東北大会へ出場する選手、コーチ、監督等に出場費の一部を補助した 年間交付件数:13件(全国小学生ソフトテニス大会など) ・大会開催補助 競技力向上と地域の活性化を目的に開催されるスポーツイベントの開催費の一部を補助した。 年間交付件数:7件(わか杉カップなど) ・東北・全国大会開催費補助 バドミントン日本リーグ バスケットボールスーパーリーグ など | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> ・東北大会、全国大会に出場したチームや選手等の経済的負担を軽減し、励みにもなっている。 ・大会の開催を通じて、地域の連携やスポーツの普及振興に大きく寄与している。 ・県内外から多数の来場者があり横手市のPRが図られる。 | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>厳しい財政状況の中ではあるが、スポーツ立市よこての趣旨に鑑み、出場費補助や大会補助などの拡充を関係者及び競技団体から要望されており、今後の支援のあり方について検討する必要がある。</p> | | |

| | | | |
|----------------|--|------|---------------|
| | | 分野 | 4. 生涯スポーツの振興 |
| 項目 | (1)ライフステージとニーズに合った スポーツサービス | 担当部課 | 教育総務部 スポーツ振興課 |
| 点検・評価対象事業名 | ④体育協会活動補助事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 7,077 千円 | | |
| 事業の目的 | アマチュアスポーツを普及振興し、市民の体力向上を図るとともに、地域社会の発展に寄与する。 | | |
| 事業の実施状況 | 市唯一のスポーツ団体であり、市のスポーツ振興を担っている。 昨年7月一般財団の法人格を取得し、加盟団体組織の活性化及び強化再編に取り組み、スポーツ組織統括団体として運営強化を進めている。 | | |
| 事業の効果等 | 一般財団法人横手市体育協会、横手市スポーツ少年団の組織強化を図ることで、各種スポーツ活動団体の活性化につながり、全国大会等で活躍する選手が増加傾向にある。 | | |
| 今後の課題・改善策 | 尚一層の組織体質強化を図っていただき、自立して活動・運営できるように連携を図りながら今後のあり方を検討していく必要がある。 | | |

| | | | |
|----------------|---|------|---------------|
| | | 分野 | 4. 生涯スポーツの振興 |
| 項目 | (1)ライフステージとニーズに合った スポーツサービス | 担当部課 | 教育総務部 スポーツ振興課 |
| 点検・評価対象事業名 | ⑤スポーツ賞表彰事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 61 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>スポーツ競技優秀者及び体育功労者に対し、横手市スポーツ賞授与規則の定めるところにより、横手市のスポーツの振興発展に寄与し、その功績が著しい個人又は団体に対し表彰する。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>選考委員会で承認された競技優秀者10名表彰し3月22日授与式を開催した。</p> | | |
| 事業の効果等 | <p>長年にわたって横手市のスポーツの振興に大きく寄与された方々や、全国大会で上位入賞を果たした選手を表彰することで、関係者及び競技団体の励みにつながる。 また、競技優秀者等が市民に周知され、スポーツが持っている力を享受できる。</p> | | |
| 今後の課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後とも横手市を代表して全国で活躍できる選手や指導者の育成に取り組んでいくよう支援する。 ・授与式の開催時期が高校等の卒業式後となっており、授与式参加者が少なく、体育協会表彰と併せて開催時期を2月中実施できるよう調整していく。 | | |

| | | | |
|----------------|---|------|---------------|
| | | 分野 | 4. 生涯スポーツの振興 |
| 項目 | (1)ライフステージとニーズに合った スポーツサービス | 担当部課 | 教育総務部 スポーツ振興課 |
| 点検・評価対象事業名 | ⑥友好都市スポーツ交流事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 619 千円 | | |
| 事業の目的 | <ul style="list-style-type: none"> ・横手市と友好都市である神奈川県厚木市、茨城県那珂市とのスポーツ交流により、スポーツの理解と友情を深め、両市のスポーツの発展と親善を促進する。 ・両市を交互に訪問し、スポーツ交流を通じて親睦を深める。 | | |
| 事業の実施状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・厚木市とのスポーツ交流事業 友好都市である厚木市へ選手団4名を「厚木マラソン大会」に派遣し、それぞれ10キロ・ハーフマラソンに参加し厚木市関係者と交流を深めた。 ・那珂市スポーツ交流事業 スポーツの発展と親善、親睦を深めることを趣旨としてスポーツ少年団交流会が、平成24年度、那珂市開催(バスケットボール)に次ぎ平成25年度は横手市で行われ、那珂市から野球スポーツ少年団選抜チームが参加。地元野球スポーツ少年団と交流試合を行った。子ども達はもとより引率の両市の関係者共々意見交換、交流を深めた。 ・世田谷マラソン交流事業 | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> ・隔年で、マラソン大会を通じてスポーツ交流を図ってきており、友好都市として一層親交を深めることができた。 ・小学生が、スポーツを通じて技術力の向上と相互の交流を深めている。また、指導者同士が相互の活動状況等を情報交換しながら交流を深めることにより、今後の指導に生かしている。 ・市民ランナーの活動の場が創出でき、世田谷区姉妹都市同士との交流、情報交換が図られた。 | | |
| 今後の課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・厚木市及び那珂市の交流事業の中で、他の競技での交流も視野に入れて検討していく。 ・世田谷マラソンへの参加をきっかけとして、世田谷区姉妹都市との交流や物産展等への出店などへ発展できるように検討していく。 | | |

| | | | |
|----------------|---|------|---------------|
| | | 分野 | 4. 生涯スポーツの振興 |
| 項目 | (1)ライフステージとニーズに合った スポーツサービス | 担当部課 | 教育総務部 スポーツ振興課 |
| 点検・評価対象事業名 | ⑦スポーツ立市よこて事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 4,326 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>スポーツをキーワードに元気なまちづくりと地域の活性化、生涯を通じた豊かなスポーツライフづくり、競技力の向上などのスポーツ振興を市民と一体となって推進していく。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <p>・「スポーツ立市よこて」宣言記念式典 4月20日横手体育館においてスポーツ関係者や市民約1,000人の参加得て、宣言文発表、スポーツ大使任命、エキシビジョンマッチなどを行い、盛会裏に終了した。</p> <p>・早慶戦inYokote 慶応高校と早稲田実業高校を招いてナイター試合を行った。関東圏の強豪校の試合とあり、一般市民が多数観戦に訪れた。また、市内高校野球部とオープン戦を行った。</p> <p>・スポーツ講演会 スポーツ大使であるコニカミノルタ陸上競技部総監督の酒井勝充氏と駒沢大学陸上部監督の大八木弘明氏を招いて、かまくら館においてスポーツ講演会を行った。市内外から約300人の中高陸上競技部の生徒の参加のもと、実際の経験を踏まえた話に真剣に聞き入っていた。</p> | | |
| 事業の効果等 | <p>・スポーツに関する多彩な事業を提供することにより、スポーツを通じて高齢者から子供にいたるまでの全ての市民が健康を育み、交流と賑わいの場を実感することができ、生涯スポーツの推進や交流人口の増加及び経済効果などが期待できる。</p> | | |
| 今後の課題・改善策 | <p>・今後の生涯スポーツや競技スポーツの普及・推進については、地域が主体となって担うことが期待されている。少子、高齢化社会の中、地域に埋もれているスポーツに関わる人的・物的資源(学校、企業等)を掘り起し行政主導のスポーツ振興から、地域社会が主導をとりスポーツを推進していくことがスポーツ環境の変化や地域の活力を育むものとする。</p> | | |

| | | | |
|----------------|--|------|-------------------------------|
| | | 分野 | 4. 生涯スポーツの振興 |
| 項目 | (1)ライフステージとニーズに合ったスポーツサービス | 担当部課 | 教育総務部 スポーツ振興課 (増田生涯学習センター) |
| 点検・評価対象事業名 | ⑧体育施設環境整備事業 | | |
| 対象事業において支出した金額 | 33,582 千円 | | |
| 事業の目的 | <p>老朽化に伴い、計画的に施設の改修を行い、市民が安心・安全に利用できる施設を目指す。</p> | | |
| 事業の実施状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・天下森スキー場圧雪車更新 29,925千円 ・天下森スキー場リフト高圧電力キュービクル更新 3,657千円 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・体育施設利用者が安心・安全に利用できる。 ・各種スポーツ大会をはじめ、生涯スポーツの推進や健康増進にもつながり生き生きとした生活を送ることができる。 | | |
| 今後の課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・市内に60施設を数える社会体育施設がある。既存施設は、老朽化が進んでおり、劣化状況を判断しながら順次改修工事等を実施する。 ・施設が市内に分散しており、利用者の利便性を考慮しつつ、スポーツ施設の統廃合や維持管理費の低減・利用者サービスの向上を目指すには、指定管理者制度等を含めた検討が必要と思われる。 | | |

IV 学識経験者の意見（総評）

点検・評価の対象は多岐にわたっているが、学校教育の充実、生涯学習の推進、地域文化の振興、生涯スポーツの振興の4分野に分けて意見を述べる。

<学校教育の充実>

学校統合推進事業について、統合に伴う廃校校舎の使途については、地域の意見を十分に聴きながら、市民に対してできるだけ早い時期にその計画を示してほしい。

スクールバス運行事業においては、運行管理費の確保が年々難しくなることが予想されるが、今後も引き続き運行管理の徹底と適正な車両管理をお願いしたい。また、自転車や徒歩で通学する子どもたちの安全確保についても併せて配慮をお願いしたい。

理科教育設備整備事業について、有利な補助制度を活用しながら小中学校の理科備品等を毎年計画的に整備していくという趣旨は理解するが、全学校に均一に予算を配分する現行の方法でなく、要望や整備状況等を勘案しながら必要に応じて特定の学校に予算を手厚くするようなこともあっていいと思う。配分方法について再度検討いただきたい。

英語指導助手招へい事業について、小学校に外国語活動が導入されて以来、教員は大変難しい状況の中で授業を行っていると思われる。国際教養大学に協力要請したり、地域の人材の有効活用なども視野に入れながら、教員の負担軽減に向けた取り組みについても検討願いたい。

学校生活サポート事業について、予算的な事情から派遣は限られた人数になると思われるが、保護者や学校からも事業を望む声が根強くあるのでぜひ継続していただきたい。

次世代ものづくり人材育成事業について、事業内容は申し分ないが、過少な予算額が気に掛かる。先進国の中での日本のキャリア教育が遅れていることに加え、科学離れも叫ばれている状況下にあるので、子どもたちに目標を持たせるきっかけを作る必要があると思う。予算は要しても、大学などとタイアップして科学の面白さに気付いてもらえるような事業を行うことも検討してほしい。

スクールガード・リーダー配置事業について、かつては各校で見守り隊を組織して取り組んでいたが、その傾向が薄れてきているようだ。各校に呼びかけながら組織の拡大と充実に向けた計画を作成し事業を進めてほしい。

<生涯学習の推進>

学校支援ボランティア活動支援事業について、事業をスムーズに進めていくため、ボランティアの希望者と学校を結び付けるような組織体系を確立していただきたい。

放課後子ども教室推進事業について、需要の大きさに比して指導者が不足している現状がある。指導者として事業へ協力いただける方がいないか、地域住民に呼び掛けることも検討してみてはどうか。

生涯学習センター事業について、バラエティに富んだ事業をされていることは評価できるが、参加者数がさほどでない事業も見られる。生涯学習課単独でなく他課と連携することで初めて可能となる事業も考えられる。子どもたちを参加対象とする場合は、学校行事とちが合わないよう調整を図りながら、子どもたちの負担にならないよう配慮して事業を企画してほしい。

図書館運営に関連して、読書人口の減少を食い止めるには、一日の学校生活のどこかに読書を組み込んでもらうなど、子どもの頃から読書に親んでもらう環境づくりが不可欠だと思われるので検討いただきたい。

<地域文化の振興>

文化財普及活動について、資料館を一度も訪れた経験がない児童・生徒や学校関係者は相当数いると思われる。資料館をいかにして教育に活用してもらうのか、PR方法を検討していただきたい。

後三年合戦保存活用整備事業について、このような事業はたくさんの人たちに関心を寄せていただくことが第一に求められるが、シンポジウムや講座へ気軽に参加できるようにPRを工夫してほしい。

芸術文化推進事業について、事業が採択されない小中学校が多いが、小中の9年間で子どもたちが一度は公演を鑑賞し芸術文化に触れる機会に恵まれるよう検討いただきたい。

<生涯スポーツの振興>

生涯スポーツの振興を目的とした事業内容の充実ぶりは評価できる。

優秀なスポーツ選手が必ずしもよい指導者になっているとは言い難い面がある。勝つことだけでなく、子どもの生活指導も併せてできる指導者が最近減少してきているのではないかと懸念している。選手だけでなく、一流の指導者を育てていくという意味で、実技や理論等を教える指導者養成講座の開設について検討されるようお願いしたい。

子どもたちがスポーツ一辺倒にならず、文化活動にも触れる時間を確保できるようバ

ランスをとってあげることが必要だと思う。そのために、週一日はスポーツ少年団の練習を完全オフにすることも検討してほしい。

最後に、事業を4分野に分けて実施状況等を評価したが、限られた予算の中で事業がしっかりと執行されていることは大いに評価したい。

事業によっては、具体的な数値を標記することが馴染まないものもあるかもしれないが、可能な限り数値をハッキリと提示し、前年度と比較することで変容の姿を確認できるような報告をしてほしい。

秋田県の小中学生の学力及び体力が全国的に見ても上位にあることは、教育委員会を始め関係者の方々が、子どもたちを健やかに育ててくれている賜物だと思われ感謝をしている。

今後は、これまで以上に少子化や人口減少が進行していくことが予想され難しい時代を迎えていく。横手で育った子どもたちが、地域に誇りを持ち、「ずっと横手に住みたい。」と感じてくれるような横手市をつくりあげていかなければならない。社会教育や生涯学習の難しさは痛感しているが、各課間で連携を密にし、市として子どもたちをどう育てていくのかを常に念頭に置きながら事業を展開されるよう期待する。